

07. 6. 2004

日本国特許庁  
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2003年 6月27日  
Date of Application:

出願番号 特願2003-184606  
Application Number:

[ST. 10/C]: [JP2003-184606]

出願人 日本電気株式会社  
Applicant(s):

REC'D 01 JUL 2004

WIPO

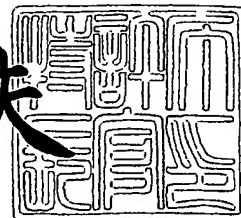
PCT

PRIORITY DOCUMENT  
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN  
COMPLIANCE WITH  
RULE 17.1(a) OR (b)

2004年 4月 6日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

今井康夫



【書類名】 特許願  
【整理番号】 52900073  
【提出日】 平成15年 6月27日  
【あて先】 特許庁長官 殿  
【国際特許分類】 H04L 12/00  
N04Q 7/24

## 【発明者】

【住所又は居所】 東京都港区芝五丁目 7 番 1 号 日本電気株式会社内

【氏名】 出井 洋明

## 【特許出願人】

【識別番号】 000004237

【氏名又は名称】 日本電気株式会社

## 【代理人】

【識別番号】 100123788

## 【弁理士】

【氏名又は名称】 宮崎 昭夫

【電話番号】 03-3585-1882

## 【選任した代理人】

【識別番号】 100088328

## 【弁理士】

【氏名又は名称】 金田 暢之

## 【選任した代理人】

【識別番号】 100106297

## 【弁理士】

【氏名又は名称】 伊藤 克博

## 【選任した代理人】

【識別番号】 100106138

## 【弁理士】

【氏名又は名称】 石橋 政幸

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 特願2003-165064

【出願日】 平成15年 6月10日

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 201087

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0304683

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 画像データ通信システムおよび画像データ通信方法

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 複数の同一動画像データを所定の時間差を付けて順次配信する画像データ配信装置と、

複数の無線エリアを移動しながら、前記画像データ配信装置から配信された動画像データを受信する画像データ受信装置とを有し、

前記画像データ受信装置は、現在の無線エリアから隣接する他の無線エリアへ移動する際に生じるハンドオーバー時は、前記画像データ配信装置から配信された前記所定の時間差を有する複数の同一動画像データを所定の期間にわたって受信し、該受信した動画像データから必要なデータを選択して1つの動画像データに再構成することを特徴とする画像データ通信システム。

【請求項 2】 前記複数の同一動画像データは、同一の画像データを同一の符号化方式で符号化した複数の画像符号化データであることを特徴とする、請求項 1 に記載の画像データ通信システム。

【請求項 3】 前記画像データ配信装置は、少なくとも前記所定の期間において、前記複数の同一画像符号化データを所定の時間差をつけて伝送路上に順次送出するとともに、該送出に際して前記再構成に必要な情報を前記複数の同一画像符号化データにそれぞれ付与する画像符号化データ送信手段を有し、

前記画像データ受信装置は、

前記画像符号化データ送信手段から前記伝送路を介して前記所定の時間差を有する複数の同一画像符号化データを受信する画像符号化データ受信手段と、

画像符号化データ受信手段にて受信された前記所定の時間差を有する複数の同一画像符号化データを、該画像符号化データに付与されている前記再構成に必要な情報を参照して1つの画像符号化データに再構成する再構成手段とを有することを特徴とする、請求項 2 に記載の画像データ通信システム。

【請求項 4】 前記画像データ配信装置は、前記画像符号化データ送信手段から送出される、前記所定の時間差を有する複数の同一画像符号化データに対して、前記伝送路における所定の制御の設定を行う制御手段をさらに有し、

前記制御手段が、前記所定の期間を除く通常時は、前記所定の時間差を有する複数の同一画像符号化データのうち、少なくとも所定の画像符号化データが前記画像データ受信装置にて優先して受信されるように前記所定の制御を設定し、前記所定の期間は、前記所定の時間差を有する複数の同一画像符号化データがともに前記画像データ受信装置にて受信されるように前記所定の制御を設定することを特徴とする、請求項 3 に記載の画像データ通信システム。

【請求項 5】 前記画像データ受信装置は、前記画像符号化データ受信手段での画像符号化データの受信状態より前記ハンドオーバの開始および終了を判断する制御情報処理手段をさらに有し、

前記制御情報処理手段が、前記ハンドオーバの開始時に開始通知を前記制御手段に送信するとともに、前記ハンドオーバの終了から所定の時間を経過した後に終了通知を前記制御手段に送信し、

前記制御手段が、前記開始通知を受信してから前記終了通知を受信するまでの期間を前記所定の期間として前記所定の制御の設定を行うことを特徴とする、請求項 4 に記載の画像データ通信システム。

【請求項 6】 前記画像データ受信装置は、前記画像符号化データ受信手段での画像符号化データの受信状態より前記ハンドオーバの開始を判断する制御情報処理手段をさらに有し、

前記制御情報処理手段が、前記ハンドオーバの開始時に前記所定の制御の設定を変更する旨の第 1 の要求を前記制御手段に送信し、前記ハンドオーバの終了から所定の時間を経過した後に、前記所定の制御の設定を変更する旨の第 2 の要求を前記制御手段に送信し、

前記制御手段が、前記第 1 の要求を受信してから前記第 2 の要求を受信するまでの期間を前記所定の期間として前記所定の制御の設定を行うことを特徴とする、請求項 4 に記載の画像データ通信システム。

【請求項 7】 前記画像データ受信装置は、画像符号化データ受信手段での画像符号化データの受信状況を所定の間隔で前記画像データ配信装置に報告する受信状況報告手段をさらに有し、

前記制御手段が、前記受信状況報告手段からの受信状況の報告に基づいて、前

記ハンドオーバーの開始および終了を判断し、該ハンドオーバーの期間と前記終了から所定の時間を経過するまでの期間を含めた期間を前記所定の期間として前記所定の制御の設定を行うことを特徴とする、請求項 4 に記載の画像データ通信システム。

【請求項 8】 前記所定の制御の設定が、前記伝送路におけるルーティングの優先度制御であることを特徴とする、請求項 4 から 7 のいずれか 1 項に記載の画像データ通信システム。

【請求項 9】 前記制御手段は、前記通常時は、前記所定の時間差を有する複数の同一画像符号化データのうち、前記所定の画像符号化データに関する前記ルーティングの優先度を他の画像符号化データより高く設定し、前記所定の期間は、前記所定の画像符号化データに関する前記ルーティングの優先度を前記通常時より低くするとともに、前記他の画像符号化データに関する前記ルーティングの優先度を前記通常時より高く設定することを特徴とする、請求項 8 に記載の画像データ通信システム。

【請求項 1 0】 前記所定の制御の設定が、前記伝送路の一部である無線伝送路における電力制御であることを特徴とする、請求項 4 から 7 のいずれか 1 項に記載の画像データ通信システム。

【請求項 1 1】 前記制御手段は、前記通常時は、前記所定の時間差を有する複数の同一画像符号化データのうち、前記所定の画像符号化データに関する前記無線伝送路における電力を他の画像符号化データより高く設定し、前記所定の期間は、前記所定の画像符号化データに関する前記無線伝送路における電力を前記通常時より低くするとともに、前記他の画像符号化データに関する前記無線伝送路における電力を前記通常時より高く設定することを特徴とする、請求項 1 0 に記載の画像データ通信システム。

【請求項 1 2】 前記所定の制御の設定が、前記伝送路上で送信される画像符号化データのビットレートであることを特徴とする、請求項 4 から 7 のいずれか 1 項に記載の画像データ通信システム。

【請求項 1 3】 前記制御手段は、前記通常時は、前記所定の時間差を有する複数の同一画像符号化データのうち、前記所定の画像符号化データに関する前

記ビットレートを他の画像符号化データより高く設定し、前記所定の期間は、前記所定の画像符号化データに関する前記ビットレートを前記通常時より低くするとともに、前記他の画像符号化データに関する前記ビットレートを前記通常時より高く設定することを特徴とする、請求項 12 に記載の画像データ通信システム。

【請求項 14】 前記伝送路の一部である無線伝送路の状態を監視し、前記無線伝送路の状態に応じて、前記画像符号化データ送信手段から送出される、前記所定の時間差を有する複数の同一画像符号化データに対して、前記伝送路における所定の制御の設定を行う無線網監視装置をさらに有し、

前記無線網監視装置が、前記所定の期間を除く通常時は、前記所定の時間差を有する複数の同一画像符号化データのうち、少なくとも所定の画像符号化データが前記画像データ受信装置にて優先して受信されるように前記所定の制御を設定し、前記所定の期間は、前記所定の時間差を有する複数の同一画像符号化データがともに前記画像データ受信装置にて受信されるように前記所定の制御を設定することを特徴とする、請求項 3 に記載の画像データ通信システム。

【請求項 15】 前記所定の制御の設定が、前記伝送路におけるルーティングの優先度制御であることを特徴とする、請求項 14 に記載の画像データ通信システム。

【請求項 16】 前記無線網監視装置は、前記通常時は、前記所定の時間差を有する複数の同一画像符号化データのうち、前記所定の画像符号化データに関する前記ルーティングの優先度を他の画像符号化データより高く設定し、前記所定の期間は、前記所定の画像符号化データに関する前記ルーティングの優先度を前記通常時より低くするとともに、前記他の画像符号化データに関する前記ルーティングの優先度を前記通常時より高く設定することを特徴とする、請求項 15 に記載の画像データ通信システム。

【請求項 17】 前記所定の制御の設定が、前記伝送路の無線伝送路における電力制御であることを特徴とする、請求項 14 に記載の画像データ通信システム。

【請求項 18】 前記無線網監視装置は、前記通常時は、前記所定の時間差

を有する複数の同一画像符号化データのうち、前記所定の画像符号化データに関する前記無線伝送路における電力を他の画像符号化データより高く設定し、前記所定の期間は、前記所定の画像符号化データに関する前記無線伝送路における電力を前記通常時より低くするとともに、前記他の画像符号化データに関する前記無線伝送路における電力を前記通常時より高く設定することを特徴とする、請求項 1 7 に記載の画像データ通信システム。

【請求項 1 9】 前記画像符号化データ送信手段は、前記伝送路上に送出する複数の同一画像符号化データのそれぞれについてマルチキャスト配信可能に構成されており、

前記画像データ受信装置は、前記所定の期間を除く通常時は、前記所定の時間差を有する複数の同一画像符号化データのうち、少なくとも所定の画像符号化データのマルチキャスト・グループに参加し、前記所定の期間は、前記所定の時間差を有する複数の同一画像符号化データのそれぞれのマルチキャスト・グループに参加するマルチキャスト・グループ参加／離脱手段をさらに有することを特徴とする、請求項 3 に記載の画像データ通信システム。

【請求項 2 0】 複数の無線エリアを移動する画像データ受信装置と伝送路を介して通信可能に接続される画像データ配信装置であって、

同一の画像データを符号化した複数の同一画像符号化データを生成する画像符号化データ生成手段と、

前記画像符号化データ生成手段で生成された複数の同一画像符号化データを、所定の時間差を付けて前記伝送路上に順次送出する画像符号化データ送信手段と、

前記画像データ受信装置が現在の無線エリアから隣接する他の無線エリアへ移動する際に生じるハンドオーバー時に、前記画像符号化データ送信手段から送出される、前記所定の時間差を有する複数の同一画像符号化データが所定の期間にわたって前記画像データ受信装置にて受信されるように、前記伝送路における所定の制御の設定を行う制御手段とを有する画像データ配信装置。

【請求項 2 1】 前記所定の制御の設定が、前記伝送路におけるルーティングの優先度制御であることを特徴とする、請求項 2 0 に記載の画像データ配信装



置。

【請求項 22】 前記制御手段は、前記所定の期間を除く通常時は、前記所定の時間差を有する複数の同一画像符号化データのうち、少なくとも所定の画像符号化データに関する前記ルーティングの優先度を他の画像符号化データより高く設定し、前記所定の期間は、前記所定の画像符号化データに関する前記ルーティングの優先度を前記通常時より低くするとともに、前記他の画像符号化データに関する前記ルーティングの優先度を前記通常時より高く設定することを特徴とする、請求項 21 に記載の画像データ配信装置。

【請求項 23】 前記所定の制御の設定が、前記伝送路の一部である無線伝送路における電力制御であることを特徴とする、請求項 20 に記載の画像データ配信装置。

【請求項 24】 前記制御手段は、前記所定の期間を除く通常時は、前記所定の時間差を有する複数の同一画像符号化データのうち、少なくとも所定の画像符号化データに関する前記無線伝送路における電力を他の画像符号化データより高く設定し、前記所定の期間は、前記所定の画像符号化データに関する前記無線伝送路における電力を前記通常時より低くするとともに、前記他の画像符号化データに関する前記無線伝送路における電力を前記通常時より高く設定することを特徴とする、請求項 23 に記載の画像データ配信装置。

【請求項 25】 前記所定の制御の設定が、前記伝送路上で送信される画像符号化データのビットレートであることを特徴とする、請求項 20 に記載の画像データ配信装置。

【請求項 26】 前記制御手段は、前記所定の期間を除く通常時は、前記所定の時間差を有する複数の同一画像符号化データのうち、少なくとも所定の画像符号化データに関する前記ビットレートを他の画像符号化データより高く設定し、前記所定の期間は、前記第 1 の画像符号化データに関する前記ビットレートを前記通常時より低くするとともに、前記他の画像符号化データに関する前記ビットレートを前記通常時より高く設定することを特徴とする、請求項 25 に記載の画像データ配信装置。

【請求項 27】 同一の画像を符号化した複数の同一画像符号化データを所

定の時間差を付けて順次配信する画像データ配信装置と伝送路を介して通信可能に接続される画像データ受信装置であって、

現在の無線エリアから隣接する他の無線エリアへ移動する際に生じるハンドオーバー時に、前記画像データ配信装置から配信された前記所定の時間差を有する同一画像符号化データを所定の期間にわたって受信する画像符号化データ受信手段と、

前記所定の期間にわたって受信した前記所定の時間差を有する同一画像符号化データから必要なデータを選択して1つの画像符号化データに再構成するデータ再構築手段とを有する画像データ配信装置。

【請求項 28】 前記画像データ配信装置が、前記複数の同一画像符号化データをそれぞれマルチキャスト配信するものであり、

前記所定の期間を除く通常時は、前記所定の時間差を有する複数の同一画像符号化データのうち、少なくとも所定の画像符号化データのマルチキャスト・グループに参加し、前記所定の期間は、前記複数の同一画像符号化データのそれぞれのマルチキャスト・グループにそれぞれ参加するマルチキャスト・グループ参加／離脱手段をさらに有することを特徴とする、請求項 27 に記載の画像データ配信装置。

【請求項 29】 画像データ配信装置と画像データ受信装置が伝送路を介して通信可能に接続された通信システムにおいて行われる画像データ通信方法であって、

前記画像データ配信装置が、画像データ受信装置に対して、複数の同一動画像データを所定の時間差を付けて順次配信する第 1 のステップと、

前記画像データ受信装置が、現在の無線エリアから隣接する他の無線エリアへ移動する際に生じるハンドオーバー時に、前記画像データ配信装置から配信された前記所定の時間差を有する複数の同一動画像データを所定の期間にわたって受信し、該受信した動画像データから必要なデータを選択して1つの動画像データに再構成する第 2 のステップとを含むことを特徴とする画像データ通信方法。

【請求項 30】 前記第 1 のステップは、前記画像データ配信装置が、前記複数の同一動画像データの送出に際して前記再構成に必要な情報を前記複数の同

一動画像データのそれぞれに付与するステップを含み、

前記第 2 のステップは、前記画像データ受信装置が、前記所定の期間に前記画像データ配信装置から配信された前記所定の時間差を有する複数の同一動画像データを、該動画像データに付与されている前記再構成に必要な情報を参照して 1 つの動画像データに再構成するステップを含むことを特徴とする、請求項 29 に記載の画像データ通信方法。

【請求項 31】 前記第 1 のステップは、

前記画像データ配信装置が、前記所定の期間を除く通常時は、前記所定の時間差を有する複数の同一動画像データのうち、少なくとも所定の動画像データが前記画像データ受信装置にて優先して受信されるように前記伝送路における所定の制御を設定するステップと、

前記画像データ配信装置が、前記所定の期間は、前記所定の時間差を有する複数の同一動画像データがともに前記画像データ受信装置にて受信されるように前記所定の制御を設定するステップとを含むことを特徴とする、請求項 29 に記載の画像データ通信方法。

【請求項 32】 前記第 2 のステップは、

前記画像データ受信装置が、前記動画像データの受信状態より前記ハンドオーバーの開始および終了を判断するステップと、

前記画像データ受信装置が、前記ハンドオーバーの開始時に開始通知を前記画像データ配信装置に送信するとともに、前記ハンドオーバーの終了から所定の時間を経過した後に終了通知を前記画像データ配信装置に送信するステップとを含み、

前記第 1 のステップは、前記画像データ配信装置が、前記開始通知を受信してから前記終了通知を受信するまでの期間を前記所定の期間として前記所定の制御の設定を行うステップを含むことを特徴とする、請求項 31 に記載の画像データ通信方法。

【請求項 33】 前記第 2 のステップは、

前記画像データ受信装置が、前記動画像データの受信状態より前記ハンドオーバーの開始および終了を判断するステップと、

前記画像データ受信装置が、前記ハンドオーバーの開始時に前記所定の制御の設

定を変更する旨の第 1 の要求を前記画像データ配信装置に送信し、前記ハンドオーバーの終了から所定の時間を経過した後に、前記所定の制御の設定を変更する旨の第 2 の要求を前記画像データ受信装置に送信するステップとを含み、

前記第 1 のステップは、前記画像データ配信装置が、前記第 1 の要求を受信してから前記第 2 の要求を受信するまでの期間を前記所定の期間として前記所定の制御の設定を行うステップを含むことを特徴とする、請求項 3 1 に記載の画像データ通信方法。

【請求項 3 4】 前記第 2 のステップは、前記画像データ受信装置が、前記動画像データの受信状況を所定の間隔で前記画像データ配信装置に報告するステップを含み、

前記第 1 のステップは、前記画像データ配信装置が、前記画像データ受信装置からの受信状況の報告に基づいて、前記ハンドオーバーの開始および終了を判断し、該ハンドオーバーの期間と前記終了から所定の時間を経過するまでの期間を含む期間を前記所定の期間として前記所定の制御の設定を行うステップを含むことを特徴とする、請求項 3 1 に記載の画像データ通信方法。

【請求項 3 5】 前記所定の制御の設定が、前記伝送路におけるルーティングの優先度制御であることを特徴とする、請求項 3 1 から 3 4 のいずれか 1 項に記載の画像データ通信方法。

【請求項 3 6】 前記第 1 のステップは、前記画像データ配信装置が、前記通常時は、前記所定の時間差を有する複数の同一動画像データのうち、前記所定の動画像データに関する前記ルーティングの優先度を他の動画像データより高く設定し、前記所定の期間は、前記所定の動画像データに関する前記ルーティングの優先度を前記通常時より低くするとともに、前記他の動画像データに関する前記ルーティングの優先度を前記通常時より高く設定するステップを含むことを特徴とする、請求項 3 5 に記載の画像データ通信方法。

【請求項 3 7】 前記所定の制御の設定が、前記伝送路の無線伝送路における電力制御であることを特徴とする、請求項 3 1 から 3 4 のいずれか 1 項に記載の画像データ通信方法。

【請求項 3 8】 前記第 1 のステップは、前記画像データ配信装置が、前記

通常時は、前記所定の時間差を有する複数の同一動画像データのうち、前記所定の動画像データに関する前記無線伝送路における電力を他の動画像データより高く設定し、前記所定の期間は、前記所定の動画像データに関する前記無線伝送路における電力を前記通常時より低くするとともに、前記他の動画像データに関する前記無線伝送路における電力を前記通常時より高く設定するステップを含むことを特徴とする、請求項 37 に記載の画像データ通信方法。

【請求項 39】 前記所定の制御の設定が、前記伝送路上で送信される画像符号化データのビットレートであることを特徴とする、請求項 31 から 34 のいずれか 1 項に記載の画像データ通信方法。

【請求項 40】 前記第 1 のステップは、前記画像データ配信装置が、前記通常時は、前記所定の時間差を有する複数の同一動画像データのうち、前記所定の動画像データに関する前記ビットレートを他の動画像データより高く設定し、前記所定の期間は、前記所定の動画像データに関する前記ビットレートを前記通常時より低くするとともに、前記他の動画像データに関する前記ビットレートを前記通常時より高く設定することを特徴とする、請求項 39 に記載の画像データ通信方法。

【請求項 41】 前記伝送路の一部である無線伝送路の状態を監視する無線網監視装置が、前記無線伝送路の状態に応じて、前記画像データ配信装置から送出される同一動画像データに対して、前記伝送路における所定の制御の設定を行う第 3 のステップと、

前記無線網監視装置が、前記所定の期間を除く通常時は、前記所定の時間差を有する複数の同一動画像データのうち、少なくとも所定の動画像データが前記画像データ受信装置に優先して受信されるように前記所定の制御を設定し、前記所定の期間は、前記所定の時間差を有する複数の同一動画像データがともに前記画像データ受信装置にて受信されるように前記所定の制御を設定することを特徴とする第 4 のステップとをさらに含むことを特徴とする、請求項 29 に記載の画像データ通信方法。

【請求項 42】 前記所定の制御の設定が、前記伝送路におけるルーティングの優先度制御であることを特徴とする、請求項 41 に記載の画像データ通信方

法。

【請求項 4 3】 前記無線網監視装置が、前記通常時は、前記所定の時間差を有する複数の同一動画像データのうち、前記所定の動画像データに関する前記ルーティングの優先度を他の動画像データより高く設定し、前記所定の期間は、前記所定の動画像データに関する前記ルーティングの優先度を前記通常時より低くするとともに、前記他の動画像データに関する前記ルーティングの優先度を前記通常時より高く設定するステップをさらに含むことを特徴とする、請求項 4 2 に記載の画像データ通信方法。

【請求項 4 4】 前記所定の制御の設定が、前記伝送路の無線伝送路における電力制御であることを特徴とする、請求項 4 1 に記載の画像データ通信方法。

【請求項 4 5】 前記無線網監視装置が、前記通常時は、前記所定の時間差を有する複数の同一動画像データのうち、前記所定の動画像データに関する前記無線伝送路における電力を他の動画像データより高く設定し、前記所定の期間は、前記所定の動画像データに関する前記無線伝送路における電力を前記通常時より低くするとともに、前記他の動画像データに関する前記無線伝送路における電力を前記通常時より高く設定するステップをさらに含むことを特徴とする、請求項 4 4 に記載の画像データ通信システム。

【請求項 4 6】 前記画像データ配信装置が、前記所定の時間差を有する複数の同一動画像データのそれぞれをマルチキャスト配信するステップと、

前記画像データ受信装置が、前記所定の期間を除く通常時は、前記所定の時間差を有する複数の同一動画像データのうち、少なくとも所定の動画像データのマルチキャスト・グループに参加し、前記所定の期間は、前記所定の時間差を有する複数の同一動画像データのマルチキャスト・グループにそれぞれ参加するステップとをさらに含む、請求項 2 9 に記載の画像データ通信方法。

【請求項 4 7】 前記複数の同一動画像データは、同一の画像データを同一の符号化方式で符号化した複数の画像符号化データであることを特徴とする、請求項 2 9 から 4 6 のいずれか 1 項に記載の画像データ通信方法。

【請求項 4 8】 サーバとクライアント端末が伝送路を介して通信可能に接続された通信システムにおいて用いられるプログラムであって、

前記クライアント端末に対して、複数の同一動画像データを所定の時間差を付けて順次配信する第1の処理を、前記サーバのコンピュータに実行させ、

現在の無線エリアから隣接する他の無線エリアへ移動する際に生じるハンドオーバー時に、前記サーバから配信された前記所定の時間差を有する複数の同一動画像データを所定の期間にわたって受信し、該受信した動画像データから必要なデータを選択して1つの動画像データに再構成する第2の処理を、前記クライアント端末のコンピュータに実行させるプログラム。

【請求項49】 複数の無線エリアを移動するクライアント端末と伝送路を介して通信可能に接続されるサーバに用いられるプログラムであって、

同一の画像データを符号化した複数の同一画像符号化データを生成する第1の処理と、

前記第1の処理で生成した複数の同一画像符号化データを、所定の時間差を付けて前記伝送路上に順次送出する第2の処理と、

前記クライアント端末が現在の無線エリアから隣接する他の無線エリアへ移動する際に生じるハンドオーバー時に、前記第2の処理で送出される、前記所定の時間差を有する複数の同一画像符号化データが所定の期間にわたって前記クライアント端末にて受信されるように、前記伝送路における所定の制御の設定を行う第3の処理とを前記サーバのコンピュータに実行させるプログラム。

【請求項50】 前記所定の制御の設定が、前記伝送路におけるルーティングの優先度制御であることを特徴とする、請求項49に記載のプログラム。

【請求項51】 前記所定の期間を除く通常時は、前記所定の時間差を有する複数の同一画像符号化データのうち、少なくとも所定の画像符号化データに関する前記ルーティングの優先度を他の画像符号化データより高く設定する処理と、

前記所定の期間は、前記所定の画像符号化データに関する前記ルーティングの優先度を前記通常時より低くするとともに、前記他の画像符号化データに関する前記ルーティングの優先度を前記通常時より高く設定する処理とをさらに前記サーバのコンピュータに実行させることを特徴とする、請求項50に記載のプログラム。

【請求項 5 2】 前記所定の制御の設定が、前記伝送路の一部である無線伝送路における電力制御であることを特徴とする、請求項 4 9 に記載のプログラム。

【請求項 5 3】 前記所定の期間を除く通常時は、前記所定の時間差を有する複数の同一画像符号化データのうち、少なくとも所定の画像符号化データに関する前記無線伝送路における電力を他の画像符号化データより高く設定する処理と、

前記所定の期間は、前記所定の画像符号化データに関する前記無線伝送路における電力を前記通常時より低くするとともに、前記他の画像符号化データに関する前記無線伝送路における電力を前記通常時より高く設定する処理とをさらに前記サーバのコンピュータに実行させることを特徴とする、請求項 5 2 に記載のプログラム。

【請求項 5 4】 前記所定の制御の設定が、前記伝送路上で送信される画像符号化データのビットレートであることを特徴とする、請求項 4 9 に記載のプログラム。

【請求項 5 5】 前記所定の期間を除く通常時は、前記所定の時間差を有する複数の同一画像符号化データのうち、少なくとも所定の画像符号化データに関する前記ビットレートを他の画像符号化データより高く設定する処理と、

前記所定の期間は、前記第 1 の画像符号化データに関する前記ビットレートを前記通常時より低くするとともに、前記他の画像符号化データに関する前記ビットレートを前記通常時より高く設定する処理とをさらに前記サーバのコンピュータに実行させることを特徴とする、請求項 5 4 に記載のプログラム。

【請求項 5 6】 同一の画像を符号化した複数の同一画像符号化データを所定の時間差を付けて順次配信するサーバと伝送路を介して通信可能に接続されるクライアント端末に用いられるプログラムであって、

現在の無線エリアから隣接する他の無線エリアへ移動する際に生じるハンドオーバー時に、前記サーバから配信された前記所定の時間差を有する複数の同一画像符号化データを所定の期間にわたって受信する処理と、

前記所定の期間にわたって受信した前記所定の時間差を有する複数の同一画像



符号化データから必要なデータを選択して1つの画像符号化データに再構成する処理とを前記クライアント端末のコンピュータに実行させるプログラム。

【請求項57】 前記複数の同一画像符号化データをそれぞれマルチキャスト配信する処理と、

前記所定の期間を除く通常時は、前記所定の時間差を有する複数の同一画像符号化データのうち、少なくとも所定の画像符号化データのマルチキャスト・グループに参加し、前記所定の期間は、前記複数の同一画像符号化データのそれぞれのマルチキャスト・グループにそれぞれ参加する処理とをさらに前記クライアント端末のコンピュータに実行させることを特徴とする、請求項56に記載のプログラム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、移動通信網を介して動画像データを配信、及び／又は、受信する、方法、装置およびシステムに関する。さらには、本発明は、そのような動画像データの配信、及び／又は、受信を行うためのプログラムに関する。

【0002】

【従来の技術】

近年、動画像データを効率良く伝送する方法として、フレーム間予測に基づいた高能率圧縮による符号化データを伝送する種々の方法が用いられている。これらの伝送方法では、主に、時間的に前後のフレームから符号化画像を予測して得られた予測パラメータと予測残差画像データを符号化することで、時間方向の相関が高い動画像データの情報量の削減を可能にしている。また、予測残差画像データを変換符号化や量子化により高能率に圧縮符号化することで、少ない伝送帯域での動画像データ伝送を可能にしている。

【0003】

上記の伝送方法の代表例として、MPEG (Moving Picture Experts Group) -1、MPEG-2、MPEG-4などの圧縮符号化方式を用いる方法がある。これらの圧縮符号化方式では、入力画像フレームをマクロブロックとよばれる一

定サイズの矩形領域単位で動き補償によるフレーム間予測を行い、得られた動きベクトルと、予測残差画像データに2次元離散コサイン変換及び量子化を施して圧縮した信号データを可変長符号化する。

#### 【0004】

上記のような動画像圧縮符号化情報を、パケット交換方式を利用したIP (Internet Protocol) ネットワークを介して配信する方法は多数ある。今後は、PHS (Personal Handyphone System) や携帯電話、またはこれらを通信手段として利用する携帯端末などよりなる移動局が、無線基地局と無線チャネルを介して接続される移動通信システムにおける動画像の配信へと展開していくことが考えられる。

#### 【0005】

ところで、移動通信システムでは、移動局が無線エリア (セル) を越えて隣接の無線エリアに移動する際にハンドオーバーが発生する。通常は、移動局において通信中の無線チャネルの受信レベルを監視し、ハンドオーバーにより受信レベルが所定レベル以下に低下したときに、ハンドオーバー要求をネットワーク側へ送出し、ネットワーク側で、移動局からのハンドオーバー要求に応じて移動局の接続先を移動前の基地局から移動後の基地局に切り替えるようになっている。

#### 【0006】

しかし、ハンドオーバー期間中は、データの受信が停止してしまうため、大量のデータの欠落が生じてしまい、受信画像の品質が劣化する。特に、MPEG方式のような、フレーム間予測を利用した符号化方式では、ハンドオーバー終了後に、予測対象ではないデータを受信することになるため、受信中の動画像データの品質が著しく劣化する上、この画像の乱れが後続フレームにも影響することになる。

#### 【0007】

そこで、ハンドオーバーによるデータ欠落を低減することができる移動通信システムが提案されている (特許文献1参照)。この移動通信システムは、ネットワークに接続される複数の基地局と、これら基地局に対して無線チャネルを介して選択的に接続される移動局とを備える。移動局は、ハンドオーバーにより、接続中

の基地局からの無線信号の受信品質が所定値より低下した場合は、ネットワークに対して同報手順の実行要求を送出する。ネットワーク側では、移動局からの実行要求に応じて、移動局に接続中の基地局とその周辺の他の基地局に対してその移動局宛の通信情報が同報転送される。そして、接続中の基地局およびその周辺の他の基地局から移動局に通信情報が同報送信される。この同報送信により、移動局は、ハンドオーバ終了時点で、即時に自局宛の通信情報を取得することができ、その結果、ハンドオーバによるデータ欠落を低減することができる。

**【0008】****【特許文献1】**

特開 2000-152307号公報

**【0009】****【発明が解決しようとする課題】**

上述したように、移動通信システムにおいて、無線チャネルを介して移動局に動画像を配信する場合は、ハンドオーバ期間中のデータ欠落によって、受信画像の品質が著しく劣化する、という問題がある。

**【0010】**

特許文献1に記載された移動通信システムにおいては、移動局は、ハンドオーバ終了時点で、即時に自局宛の通信情報を取得することができるため、ハンドオーバによるデータ欠落を低減することができる。しかしながら、ハンドオーバ期間中のデータ欠落は、無線の電力制御ではカバーすることができないものであるため、特許文献1に記載の同報送信では、このハンドオーバ期間中のデータ欠落を回避することはできない。このように、特許文献1に記載された移動通信システムでは、受信画像の品質劣化の問題を完全に解消することはできない。

**【0011】**

なお、別な手法として、移動局に対して、欠落したデータを再送することもあるが、この場合は、移動局にて、本来の画像データと再送画像データの2種類のデータを同時に受信することになるため、ネットワークリソースが不足することが考えられる。

**【0012】**

本発明の目的は、上記の問題を解決し、ネットワークリソースが不足することがなく、ハンドオーバー期間中のデータ欠落を抑制することのできる、画像データ通信システム、画像データ配信装置、画像データ受信装置、画像データ通信方法、およびプログラムを提供することにある。

### 【0013】

#### 【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するために、本発明の画像データ通信システムは、複数の同一動画像データを所定の時間差を付けて順次配信する画像データ配信装置と、複数の無線エリアを移動しながら、前記画像データ配信装置から配信された動画像データを受信する画像データ受信装置とを有し、前記画像データ受信装置は、現在の無線エリアから隣接する他の無線エリアへ移動する際に生じるハンドオーバー時は、前記画像データ配信装置から配信された前記所定の時間差を有する複数の同一動画像データを所定の期間にわたって受信し、該受信した動画像データから必要なデータを選択して1つの動画像データに再構成することを特徴とする。

### 【0014】

本発明の画像データ配信装置は、複数の無線エリアを移動する画像データ受信装置と伝送路を介して通信可能に接続される画像データ配信装置であって、同一の画像データを符号化した複数の同一画像符号化データを生成する画像符号化データ生成手段と、前記画像符号化データ生成手段で生成された複数の同一画像符号化データを、所定の時間差を付けて前記伝送路上に順次送出する画像符号化データ送信手段と、前記画像データ受信装置が現在の無線エリアから隣接する他の無線エリアへ移動する際に生じるハンドオーバー時に、前記画像符号化データ送信手段から送出される、前記所定の時間差を有する複数の同一画像符号化データが所定の期間にわたって前記画像データ受信装置にて受信されるように、前記伝送路における所定の制御の設定を行う制御手段とを有することを特徴とする。

### 【0015】

本発明の画像データ受信装置は、同一の画像を符号化した複数の同一画像符号化データを所定の時間差を付けて順次配信する画像データ配信装置と伝送路を介して通信可能に接続される画像データ受信装置であって、現在の無線エリアから

隣接する他の無線エリアへ移動する際に生じるハンドオーバー時に、前記画像データ配信装置から配信された前記所定の時間差を有する同一画像符号化データを所定の期間にわたって受信する画像符号化データ受信手段と、前記所定の期間にわたって受信した前記所定の時間差を有する同一画像符号化データから必要なデータを選択して1つの画像符号化データに再構成するデータ再構築手段とを有することを特徴とする。

**【0016】**

本発明の画像データ通信方法は、画像データ配信装置と画像データ受信装置が伝送路を介して通信可能に接続された通信システムにおいて行われる画像データ通信方法であって、前記画像データ配信装置が、画像データ受信装置に対して、複数の同一動画像データを所定の時間差を付けて順次配信する第1のステップと、前記画像データ受信装置が、現在の無線エリアから隣接する他の無線エリアへ移動する際に生じるハンドオーバー時に、前記画像データ配信装置から配信された前記所定の時間差を有する複数の同一動画像データを所定の期間にわたって受信し、該受信した動画像データから必要なデータを選択して1つの動画像データに再構成する第2のステップとを含むことを特徴とする。

**【0017】**

本発明の第1のプログラムは、サーバとクライアント端末が伝送路を介して通信可能に接続された通信システムにおいて用いられるプログラムであって、前記クライアント端末に対して、複数の同一動画像データを所定の時間差を付けて順次配信する第1の処理を、前記サーバのコンピュータに実行させ、現在の無線エリアから隣接する他の無線エリアへ移動する際に生じるハンドオーバー時に、前記サーバから配信された前記所定の時間差を有する複数の同一動画像データを所定の期間にわたって受信し、該受信した動画像データから必要なデータを選択して1つの動画像データに再構成する第2の処理を、前記クライアント端末のコンピュータに実行させることを特徴とする。

**【0018】**

本発明の第2のプログラムは、複数の無線エリアを移動するクライアント端末と伝送路を介して通信可能に接続されるサーバに用いられるプログラムであって

、同一の画像データを符号化した複数の同一画像符号化データを生成する第 1 の処理と、前記第 1 の処理で生成した複数の同一画像符号化データを、所定の時間差を付けて前記伝送路上に順次送出する第 2 の処理と、前記クライアント端末が現在の無線エリアから隣接する他の無線エリアへ移動する際に生じるハンドオーバー時に、前記第 2 の処理で送出される、前記所定の時間差を有する複数の同一画像符号化データが所定の期間にわたって前記クライアント端末にて受信されるように、前記伝送路における所定の制御の設定を行う第 3 の処理とを前記サーバのコンピュータに実行させることを特徴とする。

#### 【0019】

本発明の第 3 のプログラムは、同一の画像を符号化した複数の同一画像符号化データを所定の時間差を付けて順次配信するサーバと伝送路を介して通信可能に接続されるクライアント端末に用いられるプログラムであって、現在の無線エリアから隣接する他の無線エリアへ移動する際に生じるハンドオーバー時に、前記サーバから配信された前記所定の時間差を有する複数の同一画像符号化データを所定の期間にわたって受信する処理と、前記所定の期間にわたって受信した前記所定の時間差を有する複数の同一画像符号化データから必要なデータを選択して 1 つの画像符号化データに再構成する処理とを前記クライアント端末のコンピュータに実行させることを特徴とする。

#### 【0020】

上述のとおりの本発明の画像データ通信システム、画像データ配信装置、画像データ受信装置、画像データ通信方法、およびプログラムにおいては、ハンドオーバー時は、所定の時間差を有する複数の同一動画像データ（または複数の同一画像符号化データ）が所定の期間にわたって受信される。そして、この所定の期間にわたって受信した所定の時間差を有する複数の同一動画像データ（または複数の同一画像符号化データ）から必要なデータが選択されて 1 つの動画像データ（または画像符号化データ）に再構成される。この再構成について具体的に説明すると次のようなことになる。

#### 【0021】

所定の時間差を有する複数の同一動画像データとして、2 つの動画像データ A

、Bを考える。動画像データAは、 $A_1$ 、 $A_2$ 、 $\dots$ 、 $A_{(n-1)}$ 、 $A_n$ の $n$ 個のフレームからなり、この順番でフレームが順次送信されるものとする。動画像データBは、 $B_1$ 、 $B_2$ 、 $\dots$ 、 $B_{(n-1)}$ 、 $B_n$ の $n$ 個のフレームからなり、この順番でフレームが順次送信されるが、この動画像データBの送信は、動画像データAに対して5フレーム分の遅れを有するものとする。この場合、例えば、所定の期間に、動画像データAの $A_{11} \sim A_{21}$ までのフレームが受信されると、動画像データBについては、 $B_5 \sim B_{15}$ までのフレームが受信されることになる。所定の期間中に、ハンドオーバー期間により、動画像データAの $A_{12} \sim A_{14}$ の3フレームが欠落したとすると、動画像データBは、 $B_6 \sim B_9$ の3フレームが欠落することになる。この結果、所定の期間中には、動画像データAについては、 $A_{11}$ 、 $A_{15} \sim A_{21}$ のフレームが受信され、動画像データBについては、 $B_5$ 、 $B_{10} \sim B_{15}$ のフレームが受信されていることになる。ここで、 $B_{12} \sim B_{14}$ の3フレームは、ハンドオーバー期間中に欠落した $A_{12} \sim A_{14}$ の3フレームに対応することから、これら $B_{12} \sim B_{14}$ の3フレームにより動画像データAの欠落フレームを補うことができる。このようにして再構成されることで、ハンドオーバー期間中の欠落フレームが補われる。

#### 【0022】

ここで、上述の動画像データのA、Bは、それぞれ動画像データの同一フレームの同一部位を符号化した画像データパケット $A_1$ 、 $A_2$ 、 $\dots$ 、 $A_{(m-1)}$ 、 $A_m$ の $m$ 個の画像データパケット、 $B_1$ 、 $B_2$ 、 $\dots$ 、 $B_{(m-1)}$ 、 $B_m$ の $m$ 個の画像データパケットからなり、以降の説明は上述のフレームを画像データパケットとしたものであってもよい。

#### 【0023】

上記の再構成では、動画像データBは所定の期間にのみ必要とされ、通常時は必要としない。よって、通常時にネットワークリソースが不足する場合は、動画像データBを受信しないように制御することが可能である。

#### 【0024】

##### 【発明の実施の形態】

次に、本発明の実施形態について図面を参照して説明する。

## 【0025】

本発明の一実施形態である画像データ通信システムの主要部は、画像データ配信装置と、この画像データ配信装置と少なくとも移動通信網を介して接続される、移動通信端末（クライアント端末）である画像データ受信装置とからなる。画像データ配信装置は、画像データ受信装置に対して、所定の時間差を有する複数の同一の動画像データを送出する。画像データ受信装置は、少なくともハンドオーバー時に、画像データ配信装置から所定の時間差を有する複数の同一の動画像データを所定の期間にわたって受信し、該受信した動画像データから必要なデータを選択して1つの動画像データに再構成する。この再構成により、ハンドオーバー期間中に欠落した画像データを補うことができる。

## 【0026】

以下、本実施形態の画像データ通信システムの具体的な構成について、実施例1～6を挙げて説明する。

## 【0027】

## 【実施例】

## （実施例1）

図1に、本発明の第1の実施例である画像データ通信システムの概略構成を示す。この画像データ通信システムでは、画像データ配信装置101と画像データ受信装置107が、無線物理層上にIP網が構築された伝送路106を介して相互通信可能に接続されている。

## 【0028】

画像データ配信装置101は、インターネット標準プロトコルの1つであるUDP（User Datagram Protocol）／IPを用いて、画像符号化データを画像データ受信装置107へ配信するものであって、その構成は、制御情報処理部102、画像データ蓄積／生成部103、および画像符号化データ送信部104、105からなる。

## 【0029】

画像データ蓄積／生成部103は、あらかじめ蓄積しておいた画像データを符号化し、または、リアルタイムで外部より供給された画像データを符号化した画



像符号化データ 1、2 を生成する。この生成された画像符号化データ 1、2 は、それぞれ画像符号化データ送信部 104、105 に供給される。画像符号化データ 1、2 は、例えば M P E G 方式に代表される高能率圧縮が施された同一の符号化データである。

#### 【0030】

画像符号化データ送信部 104、105 は、画像データ蓄積／生成部 103 から供給された画像符号化データ 1、2 をそれぞれ異なるセッションで所定の時間差をつけて伝送路 106 上に送出する。本実施例では、画像符号化データ送信部 105 からの画像符号化データ 2 の送出が、画像符号化データ送信部 104 からの画像符号化データ 1 の送出より所定の時間だけ遅くなるように時間差が付けられている。ここで、所定の時間差とは、後述する再構成が可能な時間差である。また、各画像符号化データ送信部 104、105 は、画像データ受信装置 107 が、画像符号化データ 1、2 をともに受信してデータの再構成を行う場合の、受信データからの必要なデータの選択やデータの順序の入れ替えを行うことができるように、R T P ( R e a l T i m e T r a n s p o r t P r o t o c o l ) に相当する情報 (例えば R T P ヘッダ) を画像符号化データに付加する機能を有する。

#### 【0031】

制御情報処理部 102 は、通常時は、画像符号化データ 1 が画像データ受信装置 107 に優先して受信されるように、ルーティングの優先度、及び／又は、無線伝送路上の電力制御を設定し、ハンドオーバー時、すなわち画像データ受信装置 107 からハンドオーバーの開始通知を受信してからその終了通知を受信するまでの間は、画像符号化データ 1、2 がともに画像データ受信装置 107 に受信されるように、ルーティングの優先度、及び／又は、無線伝送路上の電力制御を設定する。このルーティングの優先度及び無線伝送路上の電力制御の設定には、既存の手法を適用することができる。

#### 【0032】

画像データ受信装置 107 は、無線 I P 網に接続されるクライアント端末であって、その構成は、制御情報処理部 108、画像符号化データ受信部 109、1

10、符号化データバッファ／再構成部111、およびデコーダ112からなる。

#### 【0033】

画像符号化データ受信部109は、画像符号化データ送信部104から送出された画像符号化データ1を受信し、その受信レベルを制御情報処理部108に供給する。画像符号化データ受信部110は、画像符号化データ送信部105から送出された画像符号化データ2を受信し、その受信レベルを制御情報処理部108に供給する。これら画像符号化データ受信部109、110により受信された画像符号化データは、符号化データバッファ／再構成部111に供給される。

#### 【0034】

制御情報処理部108は、画像符号化データ受信部109から供給される画像符号化データ1の受信レベルが、所定のレベル以上の状態から所定のレベル未満の状態に遷移すると、ハンドオーバの開始と判断して開始通知（または設定変更要求）を制御情報処理部102へ送信する。また、制御情報処理部108は、画像符号化データ受信部109から供給される画像符号化データ1、2の受信レベルが、所定のレベル未満の状態から所定のレベル以上の状態に遷移した場合は、ハンドオーバの終了と判断し、該終了から所定時間経過後に、ハンドオーバの終了通知（または設定変更要求）を制御情報処理部102へ送信する。

#### 【0035】

符号化データバッファ／再構成部111は、通常時は、画像符号化データ受信部109から供給される動画像符号化データをそのままデコーダ112へ出力する。また、符号化データバッファ／再構成部111は、画像符号化データ受信部109、110にて画像符号化データ1、2をともに受信した場合は、該受信した画像符号化データ1、2から、RTPに相当する機能、受信したセッション、画像データの圧縮率などに基づいて必要なデータを選択して1つの画像データに再構成し、該再構成した画像データをデコーダ112へ出力する。なお、画像符号化データ1、2をともに受信する場合も、復号化される画像データは1つであるので、デコーダ112の復号化処理への負担は増加しない。デコーダ112は、画像データ配信装置101から受信した画像符号化データ1、2を復号化する

周知のものである。

【0036】

次に、本実施例の画像データ通信システムの動作を具体的に説明する。

【0037】

まず、通常時、すなわち、画像データ受信装置 107 がある 1 つの無線エリア (セル) 内を移動している間の動作について説明する。画像データ配信装置 101 では、画像符号化データ送信部 104 が、画像符号化データ 1 を送出するとともに、画像符号化データ送信部 105 が、画像符号化データ 1 と同一の画像符号化データ 2 を、画像符号化データ 1 の送出から所定の時間分だけ遅れて送出する。

【0038】

画像符号化データ 1、2 の送出に際して、制御情報処理部 102 は、伝送路 106 上で画像符号化データ 1 が画像符号化データ 2 より高い優先度でルーティングされるように、及び／又は、伝送路 106 の無線伝送路上において画像符号化データ 1 が画像符号化データ 2 より、より高い電力で送信されるように設定する。このように設定することで、伝送路 106 のリソースが不足した場合は、画像符号化データ 1 は優先的に画像データ受信装置 107 へ届くが、画像符号化データ 2 は伝送路 106 上で廃棄されることとなる。これにより、過剰なトラヒックのために伝送路 106 がオーバフローする、といったことが抑制される。

【0039】

画像データ受信装置 107 では、少なくとも画像符号化データ 1 が画像符号化データ受信部 109 にて受信される。この受信された画像符号化データ 1 は、符号化データバッファ／再構成部 111 にて一時的に格納された後、デコーダ 112 へ供給され、そこで復号化処理が施される。

【0040】

次に、ハンドオーバー時、すなわち、画像データ受信装置 107 が、画像符号化データ 1 を受信中に、現在の無線エリアから隣接する他の無線エリアへ移動する場合の動作を説明する。

【0041】

現在の無線エリアの基地局から離れるに従って、画像データ受信装置 107 では、画像符号化データ 1 の受信レベルが低下する。制御情報処理部 108 は、画像符号化データ受信部 109 から供給される画像符号化データ 1 の受信レベルが所定のレベルを下回ると、画像データ配信装置 101 に対してハンドオーバー開始通知を送信する。

#### 【0042】

画像データ配信装置 101 では、ハンドオーバー開始通知を受信すると、制御情報処理部 102 が、画像データ受信装置 107 にて画像符号化データ 1、2 がともに受信されるように、ルーティングの優先度、及び／又は、無線伝送路上の電力制御を設定する。これにより、画像データ受信装置 107 では、ハンドオーバー開始通知の送信後は、所定の時間差を有する同一の画像符号化データ 1、2 がともに受信されることとなる。

#### 【0043】

現在の無線エリアの基地局からさらに離れると、画像データ受信装置 107 では、画像符号化データ 1、2 の受信レベルがさらに低下して受信不能となる。この画像符号化データ 1、2 の受信不能になった時点が、ハンドオーバー期間の始まりである。また、画像データ受信装置 107 が移動先である他の無線エリア内の基地局に近づくに従って、画像データ受信装置 107 では、画像符号化データ 1、2 の受信レベルが除々に大きくなり、画像符号化データ 1、2 の受信が可能となる。この画像符号化データ 1、2 の受信が可能になった時点が、ハンドオーバー期間の終わりである。ハンドオーバー期間中は、画像データ受信装置 107 では、画像符号化データ 1、2 のいずれも受信不能となるため、データが欠落する。

#### 【0044】

画像符号化データ 1、2 の受信が可能となり、画像符号化データ 1、2 の受信レベルが所定のレベル以上になると、画像データ受信装置 107 では、制御情報処理部 108 が、受信レベルが所定のレベル以上となった時点から所定の時間を経過した後に、ハンドオーバー終了通知を画像データ配信装置 101 へ送信する。

#### 【0045】

ハンドオーバー期間が終了してから所定の期間は、画像データ受信装置 107 で

は、画像符号化データ 1、2 がともに受信される。この所定の期間中に受信される画像符号化データ 2 には、画像符号化データ 1 のハンドオーバ期間中に欠落したデータの一部又は全部が含まれる。符号化データバッファ／再構成部 111 は、受信した画像符号化データ 2 からその画像符号化データ 1 の欠落データに相当するデータを選択し、該選択したデータと受信した画像符号化データ 1 とを正しく並べることで 1 つの画像データに再構成する。この再構成により、画像符号化データ 1 の欠落データの一部又は全部が補われる。こうして再構成した画像データは、デコーダ 112 に供給されてそこで復号化される。

#### 【0046】

上記所定の期間の後、画像データ配信装置 101 では、ハンドオーバ終了通知を受信する。そして、制御情報処理部 102 が、伝送路 106 上で画像符号化データ 1 が画像符号化データ 2 より高い優先度でルーティングされるように、及び／又は、伝送路 106 の無線伝送路上において画像符号化データ 1 が画像符号化データ 2 より、より高い電力で送信されるように設定する。この設定により、画像データ受信装置 107 では、上述の通常時と同じ動作が行われることとなる。

#### 【0047】

図 2 に、上述したハンドオーバ時における画像データの再構成の具体例を示す。画像符号化データ 1 として 7 番目のフレーム、8 番目のフレーム・・・30 番目のフレームのデータがこの順番で送信され、画像符号化データ 2 として 1 番目のフレーム、2 番目のフレーム・・・24 番目のフレームのデータがこの順番で送信されており、これら画像符号化データ 1、2 の間には、6 フレーム分の時間差がある。画像符号化データ 1 において、7 番目～14 番目および 25 番目～30 番目のフレーム（太字で示した部分）は、高優先度に設定された部分であり、15 番目～24 番目のフレーム（細字で示した部分）は、優先度が低くなるように設定された部分である。画像符号化データ 2 において、1 番目～8 番目および 19 番目～24 番目のフレーム（小文字で示した部分）は、低優先度に設定された部分であり、9 番目～18 番目のフレーム（下線を付きの文字で示した部分）は、通常優先度に設定された部分である。

#### 【0048】

図2の例では、画像データ受信装置107が、画像符号化データ1の14番目のフレームを受信した時点で、ハンドオーバー開始通知を画像データ配信装置101へ送信し、画像符号化データ1の24番目のフレームを受信した時点で、ハンドオーバー終了通知を画像データ配信装置101へ送信する。そして、画像データ受信装置107では、ハンドオーバー開始通知の送信前は、画像符号化データ1の7番目～14番目のフレームのデータが優先的に受信され、ハンドオーバー終了通知の送信後は、画像符号化データ1の25番目～30番目のフレームのデータが優先的に受信される。

#### 【0049】

画像データ配信装置101では、ハンドオーバー開始通知を受信してからハンドオーバー終了通知を受信するまでの期間は、画像符号化データ1、2がともに画像データ受信装置107にて受信されるように優先度、及び／又は、電力制御の設定が行われる。このため、ハンドオーバー開始通知の送信後は、画像符号化データ1については、15番目のフレームから優先度が低くなり、画像符号化データ2については、9番目のフレームから通常優先度になる。これにより、画像データ受信装置107では、画像符号化データ1については15番目のフレームから、画像符号化データ2については9番目のフレームから画像データがともに受信されることとなる。

#### 【0050】

画像符号化データ1の16番目～20番目までのフレーム、および、画像符号化データ2の10番目～14番目までのフレームの期間はハンドオーバー期間中であり、このハンドオーバー期間中は、画像データ受信装置107では、画像符号化データ1、2のいずれも受信不能となる。このため、このハンドオーバー期間中は、画像符号化データ1については、16番目から20番目までのフレームのデータが欠落し、画像符号化データ2については、10番目から14番目までのフレームのデータが欠落することとなる。

#### 【0051】

ハンドオーバー期間の終了後、ハンドオーバー終了通知までの期間は、画像データ受信装置107では、画像符号化データ1については21番目のフレームから、

画像符号化データ 2 については 15 番目のフレームから順次受信される。こうして、画像データ受信装置 107 では、ハンドオーバー開始通知からハンドオーバー終了通知までの期間中に、画像符号化データ 1 の 15 番目、21 番目～24 番目のフレームのデータ、および、画像符号化データ 2 の 9 番目、15 番目～18 番目のフレームのデータがともに受信されることとなる。そして、その受信した画像符号化データ 1 の 21 番目から 24 番目までのフレームと画像符号化データ 2 の 15 番目から 18 番目までのフレームとから画像データの再構成が行われる。これにより、ハンドオーバー期間中に欠落した画像符号化データ 1 の 16 番目から 20 番目までのフレームのうち、16 番目から 18 番目までの欠落フレームが補われることになる。

#### 【0052】

(実施例 2)

図 3 に、本発明の第 2 の実施例である画像データ通信システムの概略構成を示す。この画像データ通信システムでは、画像データ配信装置 301 と画像データ受信装置 307 が、無線物理層上に IP 網が構築された伝送路 306 を介して相互通信可能に接続されている。

#### 【0053】

画像データ配信装置 301 は、UDP/IP を用いて、画像符号化データを画像データ受信装置 307 へ配信するものであって、その構成は、受信状況報告受信部 302、画像データ蓄積／生成部 303、および画像符号化データ送信部 304、305 からなる。画像データ蓄積／生成部 303 および画像符号化データ送信部 304、305 は、基本的には、図 1 に示した画像データ蓄積／生成部 103、および画像符号化データ送信部 104、105 と同じものである。

#### 【0054】

受信状況報告受信部 302 は、画像データ受信装置 307 からの受信状況報告に基づいて、画像データ受信装置 307 におけるハンドオーバーの開始と終了を判断する。また、受信状況報告受信部 302 は、通常時は、画像符号化データ 1 が画像データ受信装置 307 に優先して受信されるように、ルーティングの優先度、及び／又は、無線伝送路上の電力制御を設定し、ハンドオーバー時、すなわちハ

ンドオーバの開始から終了までの間は、画像符号化データ 1、2 がともに画像データ受信装置 307 に受信されるように、ルーティングの優先度、及び／又は、無線伝送路上の電力制御を設定する。このルーティングの優先度及び無線伝送路上の電力制御の設定にも、既存の手法を適用することができる。

#### 【0055】

画像データ受信装置 307 は、無線 IP 網に接続されるクライアント端末であって、その構成は、受信状況報告送信部 308、画像符号化データ受信部 309、310、符号化データバッファ／再構成部 311、およびデコーダ 312 からなる。符号化データバッファ／再構成部 311 およびデコーダ 312 は、基本的には、図 1 に示した符号化データバッファ／再構成部 111 およびデコーダ 112 と同じものである。

#### 【0056】

画像符号化データ受信部 309 は、画像符号化データ送信部 304 から送出された画像符号化データ 1 を受信する。画像符号化データ受信部 310 は、画像符号化データ送信部 305 から送出された画像符号化データ 2 を受信する。これら画像符号化データ受信部 309、310 で受信された画像符号化データ 1、2 は符号化データバッファ／再構成部 311 に供給される。

#### 【0057】

受信状況報告送信部 308 は、画像符号化データ受信部 309、310 のそれぞれから、受信した画像符号化データ 1、2 について、R T C P (RTP Control Protocol) の R R (Receiver Report) もしくはこれに相当する情報を、R T C P の仕様に基づいた間隔、もしくは一定間隔、もしくは過去の情報の変化の大きさによって例えば変化が大きい場合は短く、変化が小さい場合は長くなるような間隔で収集し、該収集した情報から損失率等の統計をとってこれを受信状況報告として画像データ配信装置 301 へ送信する。

#### 【0058】

次に、本実施例の画像データ通信システムの動作を具体的に説明する。

#### 【0059】

まず、通常時、すなわち、画像データ受信装置 307 がある 1 つの無線エリア



(セル)内を移動している間の動作について説明する。通常時は、受信状況報告受信部 3 0 2 は、画像符号化データ 1、2 の送出に際して、画像符号化データ 1 が画像データ受信装置 3 0 7 に優先して受信されるように、ルーティングの優先度、及び／又は、無線伝送路上の電力制御を設定する。このように設定することで、伝送路 3 0 6 のリソースが不足した場合は、画像符号化データ 1 は優先的に画像データ受信装置 3 0 7 へ届くが、画像符号化データ 2 は伝送路 3 0 6 上で廃棄されることとなる。これにより、過剰なトラヒックのために伝送路 3 0 6 がオーバーフローする、といったことが抑制される。

#### 【 0 0 6 0 】

画像データ受信装置 3 0 7 では、少なくとも画像符号化データ 1 が画像符号化データ受信部 3 0 9 にて受信される。この受信された画像符号化データ 1 は、符号化データバッファ／再構成部 3 1 1 にて一時的に格納された後、デコーダ 3 1 2 へ供給され、そこで復号化処理が施される。

#### 【 0 0 6 1 】

次に、ハンドオーバー時、すなわち、画像データ受信装置 3 0 7 が、画像符号化データ 1 を受信中に、現在の無線エリアから隣接する他の無線エリアへ移動する場合の動作を説明する。

#### 【 0 0 6 2 】

現在の無線エリアの基地局から離れるに従って、画像データ受信装置 3 0 7 では、画像符号化データ 1 の受信状態が悪化して損失率が増大する。損失率が増大すると、受信状況報告送信部 3 0 8 からの受信状況報告である画像符号化データ 1 の損失率の統計値が所定の値を上回る。

#### 【 0 0 6 3 】

画像符号化データ 1 の損失率の統計値が所定の値を上回ると、画像データ配信装置 3 0 1 では、受信状況報告受信部 3 0 2 がハンドオーバーの開始と判断し、画像符号化データ 1、2 がともに画像データ受信装置 3 0 7 に受信されるように、ルーティングの優先度、及び／又は、無線伝送路上の電力制御を設定する。具体的には、受信状況報告受信部 3 0 2 は、画像符号化データ 1 については、ルーティングの優先度、及び／又は、伝送路での送信電力を下げ、画像符号化データ 2

については、ルーティングの優先度、及び／又は、伝送路での送信電力を上げる設定を行う。これにより、画像データ受信装置 307 では、ハンドオーバー開始後は、所定の時間差を有する同一の画像符号化データ 1、2 がともに受信されることとなる。

#### 【0064】

現在の無線エリアの基地局からさらに離れると、画像データ受信装置 307 では、画像符号化データ 1、2 の受信状態がさらに悪化して受信不能となる。この画像符号化データ 1、2 の受信不能になった時点が、ハンドオーバー期間の始まりである。また、画像データ受信装置 307 が移動先である他の無線エリア内の基地局に近づくに従って、画像データ受信装置 307 では、画像符号化データ 1、2 の受信状態が徐々に改善され、最終的に画像符号化データ 1、2 の受信が可能となる。この画像符号化データ 1、2 の受信が可能になった時点が、ハンドオーバー期間の終わりである。ハンドオーバー期間中は、画像データ受信装置 307 では、画像符号化データ 1、2 のいずれも受信不能となるため、データが欠落する。

#### 【0065】

画像符号化データ 1、2 の受信が可能となると、受信状況報告送信部 308 からの受信状況報告である画像符号化データ 1、2 の損失率の統計値が所定の値以下となる。画像データ配信装置 301 では、受信状況報告受信部 302 が、統計値が所定の値以下となった時点から所定の時間を経過した後に、ハンドオーバーの終了と判断し、画像符号化データ 1 が画像データ受信装置 307 にて優先して受信されるように、ルーティングの優先度、及び／又は、無線伝送路上の電力制御を通常時の設定に戻す。

#### 【0066】

ハンドオーバー期間が終了してから所定の期間は、画像データ受信装置 307 では、画像符号化データ 1、2 がともに受信される。この所定の期間中に受信される画像符号化データ 2 には、画像符号化データ 1 のハンドオーバー期間中に欠落したデータの一部又は全部が含まれる。符号化データバッファ／再構成部 311 は、受信した画像符号化データ 2 からその画像符号化データ 1 の欠落データに相当するデータを選択し、該選択したデータと受信した画像符号化データ 1 とを正し

く並べることで1つの画像データに再構成する。この再構成により、画像符号化データ1の欠落データの一部又は全部が補われる。こうして再構成した画像データは、デコーダ312に供給されてそこで復号化される。

#### 【0067】

上記所定の期間の後は、画像データ受信装置307では、上述の通常時と同じ動作が行われることとなる。

#### 【0068】

図4に、上述したハンドオーバ時における画像データの再構成の具体例を示す。画像符号化データ1として7番目のフレーム、8番目のフレーム・・・30番目のフレームのデータがこの順番で送信され、画像符号化データ2として1番目のフレーム、2番目のフレーム・・・24番目のフレームのデータがこの順番で送信されており、これら画像符号化データ1、2の間には、6フレーム分の時間差がある。画像符号化データ1において、7番目～14番目および27番目～30番目のフレーム（太字で示した部分）は、高優先度に設定された部分であり、15番目～26番目のフレーム（細字で示した部分）は、優先度が低くなるように設定された部分である。画像符号化データ2において、1番目～8番目および21番目～24番目のフレーム（小文字で示した部分）は、低優先度に設定された部分であり、9番目～20番目のフレーム（下線を付きの文字で示した部分）は、通常優先度に設定された部分である。

#### 【0069】

図4の例では、画像データ受信装置307は、6フレーム置きに受信状況報告を画像データ配信装置301へ送信する。画像データ受信装置301は、画像符号化データ1の14番目のフレームを受信した時点で、ハンドオーバの開始と判断し、画像符号化データ1の26番目のフレームを受信した時点で、ハンドオーバの終了と判断する。画像データ受信装置307では、ハンドオーバの開始前は、画像符号化データ1の7番目～14番目のフレームのデータが優先的に受信され、ハンドオーバの終了後は、画像符号化データ1の27番目～30番目のフレームのデータが優先的に受信される。

#### 【0070】

ハンドオーバの開始から終了までの期間は、画像符号化データ 1、2 がともに画像データ受信装置 307 にて受信されるように優先度、及び／又は、電力制御の設定が行われる。このため、ハンドオーバの開始後は、画像符号化データ 1 については、15 番目のフレームから優先度が低くなり、画像符号化データ 2 については、9 番目のフレームから通常優先度になる。これにより、画像データ受信装置 307 では、画像符号化データ 1 については 15 番目のフレームから、画像符号化データ 2 については 9 番目のフレームから画像データがともに受信されることとなる。

#### 【0071】

画像符号化データ 1 の 16 番目から 20 番目までのフレーム（画像符号化データ 2 では、10 番目から 14 番目までのフレーム）の期間は、ハンドオーバ期間中であり、このハンドオーバ期間中は、画像データ受信装置 307 では、画像符号化データ 1、2 のいずれも受信不能となる。このため、このハンドオーバ期間中は、画像符号化データ 1 については、16 番目から 20 番目までのフレームのデータが欠落し、画像符号化データ 2 については、10 番目から 14 番目までのフレームのデータが欠落することとなる。

#### 【0072】

ハンドオーバ期間の終了後、ハンドオーバの終了までの期間は、画像データ受信装置 307 では、画像符号化データ 1 については 21 番目のフレームから、画像符号化データ 2 については 15 番目のフレームから順次受信される。こうして、画像データ受信装置 307 では、ハンドオーバの開始から終了までの期間中に、画像符号化データ 1 の 15 番目、21 番目～26 番目のフレームのデータ、および、画像符号化データ 2 の 9 番目、15 番目～20 番目のフレームのデータがともに受信されることとなる。そして、その受信した画像符号化データ 1 の 21 番目～26 番目のフレームと画像符号化データ 2 の 15 番目～20 番目のフレームとから画像データの再構成が行われる。これにより、ハンドオーバ期間中に欠落した画像符号化データ 1 の 16 番目～20 番目のフレームが、画像符号化データ 2 の 16 番目～20 番目のフレームで補われることになる。

#### 【0073】

## (実施例 3)

本実施例の画像データ通信システムは、図 1 に示したシステムと同じ構成のものであるが、一部の動作が異なる。具体的には、画像データ配信装置 101 において、制御情報処理部 102 による制御により、ハンドオーバー時にのみ、画像符号化データ送信部 105 から画像符号化データ 2 が送信されるようにした点が、図 1 のシステムと異なる。その他の動作は、基本的には、図 1 のシステムと同じである。

## 【0074】

以下、本実施例の画像データ通信システムの動作を具体的に説明する。

## 【0075】

通常時は、画像データ配信装置 101 では、画像符号化データ送信部 104 から画像符号化データ 1 が送信されるが、画像符号化データ送信部 105 からの画像符号化データ 2 の送信は行われず。画像データ受信装置 107 では、画像符号化データ 1 のみが画像符号化データ受信部 109 にて受信される。この受信された画像符号化データ 1 は、符号化データバッファ／再構成部 111 にて一時的に格納された後、デコーダ 112 へ供給され、そこで復号化処理が施される。

## 【0076】

次に、ハンドオーバー時における動作を説明する。

## 【0077】

画像データ受信装置 107 では、現在の無線エリアの基地局から離れるに従って、画像符号化データ 1 の受信レベルが低下する。制御情報処理部 108 は、画像符号化データ受信部 109 から供給される画像符号化データ 1 の受信レベルが所定のレベルを下回ると、画像データ配信装置 101 に対して、ハンドオーバー開始通知を送信する。このハンドオーバー開始通知に代えて、又は、このハンドオーバー開始通知とともに、制御情報処理部 108 は、画像データ配信装置 101 に対して、画像符号化データ 1 を低ビットレートの画像符号化データに切り替えとともに画像符号化データ 2 の配信を開始するように要求してもよい。この場合、制御情報処理部 108 は、伝送路 106 での優先度ルーティング、及び／又は、伝送路 106 の無線伝送路での電力制御の再設定を要求してもよい。

## 【0078】

画像データ配信装置 1 0 1 では、ハンドオーバー開始通知（及び／又は、低ビットレートへの変更及び画像符号化データ 2 の配信開始の要求）を受信すると、制御情報処理部 1 0 2 が、画像符号化データ送信部 1 0 4 から送信される画像符号化データ 1 を、よりビットレートの低い画像符号化データに切り替えるとともに、画像符号化データ送信部 1 0 5 から、画像符号化データ 2 の送信を行わせる。このとき、制御情報処理部 1 0 2 は、画像符号化データ 1、2 がともに画像データ受信装置 1 0 7 にて受信されるように、伝送路 1 0 6 での優先度ルーティング、及び／又は、伝送路 1 0 6 の無線伝送路での電力制御の再設定を行ってもよい。

## 【0079】

現在の無線エリアの基地局からさらに離れると、画像データ受信装置 1 0 7 では、画像符号化データ 1、2 の受信レベルがさらに低下して受信不能となる。この画像符号化データ 1、2 の受信不能になった時点が、ハンドオーバー期間の始まりである。また、画像データ受信装置 1 0 7 が移動先である他の無線エリア内の基地局に近づくに従って、画像データ受信装置 1 0 7 では、画像符号化データ 1、2 の受信レベルが除々に大きくなり、画像符号化データ 1、2 の受信が可能となる。この画像符号化データ 1、2 の受信が可能になった時点が、ハンドオーバー期間の終わりである。ハンドオーバー期間中は、画像データ受信装置 1 0 7 では、画像符号化データ 1、2 のいずれも受信不能となるため、データが欠落する。

## 【0080】

画像符号化データ 1、2 の受信が可能となり、画像符号化データ 1、2 の受信レベルが所定のレベル以上になると、画像データ受信装置 1 0 7 では、制御情報処理部 1 0 8 が、両データの受信レベルが所定のレベル以上となった時点から所定の時間を経過した後に、ハンドオーバー終了通知を画像データ配信装置 1 0 1 へ送信する。このハンドオーバー終了通知に代えて、又は、このハンドオーバー終了通知とともに、制御情報処理部 1 0 8 は、画像データ配信装置 1 0 1 に対して、画像符号化データ 2 の配信停止及び画像符号化データ 1 の通常ビットレート画像符号化データへの切り替えを要求してもよい。また、制御情報処理部 1 0 8 は、ハ

ンドオーバ開始時に伝送路 106 でのルーティングの優先度、及び／又は、無線伝送路での送信電力制御を変更している場合は、これを通常時における元の状態に戻すように画像データ配信装置 101 に要求する。

#### 【0081】

ハンドオーバ期間が終了してから所定の期間は、画像データ受信装置 107 では、画像符号化データ 1、2 がともに受信される。この所定の期間中に受信される画像符号化データ 2 には、画像符号化データ 1 のハンドオーバ期間中に欠落したデータの一部又は全部が含まれる。符号化データバッファ／再構成部 111 は、受信した画像符号化データ 2 からその画像符号化データ 1 の欠落データに相当するデータを選択し、該選択したデータと受信した画像符号化データ 1 とを正しく並べることで 1 つの画像データに再構成する。この再構成により、画像符号化データ 1 の欠落データの一部又は全部が補われる。こうして再構成した画像データは、デコーダ 112 に供給されてそこで復号化される。

#### 【0082】

上記所定の期間の後、画像データ配信装置 101 では、ハンドオーバ終了通知（及び／又は、通常ビットレートへの変更及び画像符号化データ 2 の配信停止の要求）を受信する。そして、制御情報処理部 102 が、画像符号化データ送信部 104 から送信される低ビットレートの画像符号化データ 1 を通常ビットレート画像符号化データへの切り替えとともに、画像符号化データ送信部 104 からの画像符号化データ 2 の配信を停止させる。これにより、上述の通常時と同じ動作が行われる。

#### 【0083】

図 5 に、上述したハンドオーバ時における画像データの再構成の具体例を示す。画像符号化データ 1 として 7 番目のフレーム、8 番目のフレーム・・・30 番目のフレームのデータがこの順番で送信される。また、ハンドオーバ時には、画像符号化データ 1 とともに、画像符号化データ 2 として 9 番目のフレーム、10 番目のフレーム・・・22 番目のフレームのデータがこの順番で送信される。これら画像符号化データ 1、2 の間には、6 フレーム分の時間差がある。画像符号化データ 1 において、7 番目～14 番目および 25 番目～30 番目のフレーム（

太字で示した部分)は、通常ビットレートで送信されるように設定され、15番目～24番目のフレーム(細字で示した部分)は、低ビットレートで送信されるように設定された部分である。画像符号化データ2において、9番目～22番目のフレーム(細字で示した部分)は、低ビットレートで送信されるように設定された部分である。

#### 【0084】

図5の例では、画像データ受信装置107は、画像符号化データ1の14番目のフレームを受信した時点で、ハンドオーバー開始通知、及び／又は、低ビットレートへの変更および画像符号化データ2の配信開始の要求(以下、単に「ハンドオーバー開始通知／要求」と記す。)を画像データ配信装置101へ送信し、画像符号化データ1の24番目のフレームを受信した時点で、ハンドオーバー終了通知、及び／又は、通常ビットレートへの変更および画像符号化データ2の配信停止の要求(以下、単に「ハンドオーバー終了通知／要求」と記す。)を画像データ配信装置101へ送信する。

#### 【0085】

画像データ受信装置107では、ハンドオーバー開始通知／要求の送信前は、画像符号化データ1の7番目～14番目のフレームのデータが受信され、ハンドオーバー終了通知／要求の送信後は、画像符号化データ1の29番目～30番目のフレームのデータが受信される。

#### 【0086】

画像データ配信装置101では、ハンドオーバー開始通知／要求を受信してからハンドオーバー終了通知／要求を受信するまでの期間においては、画像符号化データ1については、15番目のフレームから低ビットレートでの送信が順次行われ、画像符号化データ2については、9番目のフレームから低ビットレートでの送信が順次行われる。これにより、画像データ受信装置107では、画像符号化データ1については15番目のフレームから、画像符号化データ2については9番目のフレームから画像データがともに受信されることとなる。

#### 【0087】

画像符号化データ1の16番目～20番目までのフレーム、および、画像符号



化データ 2 の 10 番目～14 番目までのフレームの期間はハンドオーバ期間中であり、このハンドオーバ期間中は、画像データ受信装置 107 では、画像符号化データ 1、2 のいずれも受信不能となる。このため、このハンドオーバ期間中は、画像符号化データ 1 については、16 番目から 20 番目までのフレームのデータが欠落し、画像符号化データ 2 については、10 番目から 14 番目までのフレームのデータが欠落することとなる。

#### 【0088】

ハンドオーバ期間の終了後、ハンドオーバ終了通知までの期間は、画像データ受信装置 107 では、画像符号化データ 1 については 21 番目のフレームから、画像符号化データ 2 については 15 番目のフレームから順次受信される。こうして、画像データ受信装置 107 では、ハンドオーバ開始通知からハンドオーバ終了通知までの期間中に、画像符号化データ 1 の 15 番目、21 番目～28 番目のフレームのデータ、および、画像符号化データ 2 の 9 番目、15 番目～22 番目のフレームのデータがともに受信されることとなる。そして、これら受信した画像符号化データから、15 番目～28 番目のフレームが選択されて正しい順番で並び替えることで画像データの再構成が行われる。これにより、ハンドオーバ期間中に欠落した画像符号化データ 1 の 16 番目から 20 番目までのフレームが補われることになる。

#### 【0089】

##### (実施例 4)

本実施例の画像データ通信システムは、図 3 に示したシステムと同じ構成のものであるが、一部の動作が異なる。具体的には、画像データ配信装置 301 において、受信状況報告受信部 302 による制御により、ハンドオーバ時にのみ、画像符号化データ送信部 305 から画像符号化データ 2 が送信されるようにした点が、図 3 のシステムと異なる。その他の動作は、基本的には、図 3 のシステムと同じである。

#### 【0090】

以下、本実施例の画像データ通信システムの動作を具体的に説明する。

#### 【0091】

通常時は、画像データ配信装置 3 0 1 では、画像符号化データ送信部 3 0 4 から画像符号化データ 1 が送信されるが、画像符号化データ送信部 3 0 5 からの画像符号化データ 2 の送信は行われず、画像データ受信装置 3 0 7 では、画像符号化データ 1 のみが画像符号化データ受信部 3 0 9 にて受信される。この受信された画像符号化データ 1 は、符号化データバッファ／再構成部 3 1 1 にて一時的に格納された後、デコーダ 1 1 2 へ供給され、そこで復号化処理が施される。

#### 【0 0 9 2】

次に、ハンドオーバー時における動作を説明する。

#### 【0 0 9 3】

現在の無線エリアの基地局から離れるに従って、画像データ受信装置 3 0 7 では、画像符号化データ 1 の受信状態が悪化して損失率が増大する。損失率が増大すると、受信状況報告送信部 3 0 8 からの受信状況報告である画像符号化データ 1 の損失率の統計値が所定の値を上回る。

#### 【0 0 9 4】

画像符号化データ 1 の損失率の統計値が所定の値を下回ると、画像データ配信装置 3 0 1 では、受信状況報告受信部 3 0 2 がハンドオーバーの開始と判断し、画像符号化データ送信部 3 0 4 から送信される画像符号化データ 1 を、よりビットレートの低い画像符号化データに切り替えるとともに、画像符号化データ送信部 3 0 5 からの画像符号化データ 2 の送信を行わせる。このとき、受信状況報告受信部 3 0 2 画像符号化データ 1、2 がともに画像データ受信装置 3 0 7 にて受信されるように、伝送路 3 0 6 での優先度ルーティング、及び／又は、伝送路 3 0 6 の無線伝送路での電力制御の再設定を行ってもよい。これにより、画像データ受信装置 3 0 7 では、ハンドオーバー開始後は、所定の時間差を有する同一の画像符号化データ 1、2 がともに受信されることとなる。

#### 【0 0 9 5】

現在の無線エリアの基地局からさらに離れると、画像データ受信装置 3 0 7 では、画像符号化データ 1、2 の受信状態がさらに悪化して受信不能となる。この画像符号化データ 1、2 の受信不能になった時点が、ハンドオーバー期間の始まりである。また、画像データ受信装置 3 0 7 が移動先である他の無線エリア内の基

地局に近づくに従って、画像データ受信装置 3 0 7 では、画像符号化データ 1、2 の受信状態が徐々に改善され、最終的に画像符号化データ 1、2 の受信が可能となる。この画像符号化データ 1、2 の受信が可能になった時点が、ハンドオーバー期間の終わりである。ハンドオーバー期間中は、画像データ受信装置 3 0 7 では、画像符号化データ 1、2 のいずれも受信不能となるため、データが欠落する。

#### 【0 0 9 6】

画像符号化データ 1、2 の受信が可能となると、受信状況報告送信部 3 0 8 からの受信状況報告である画像符号化データ 1、2 の損失率の統計値が所定の値以下となる。画像データ配信装置 3 0 1 では、受信状況報告受信部 3 0 2 が、統計値が所定の値以下となった時点から所定の時間を経過した後に、ハンドオーバーの終了と判断し、画像符号化データ送信部 3 0 4 から送信されている低画像符号化データ 1 のビットレートを、低ビットレートから通常ビットレートに切り替えるとともに、画像符号化データ送信部 3 0 5 からの画像符号化データ 2 の送信を停止する。このとき、受信状況報告送信部 3 0 8 は、ハンドオーバー開始判断時に伝送路 3 0 6 でのルーティングの優先度、及び／又は、無線伝送路での送信電力制御を変更している場合は、これを通常時の状態（元の状態）に戻す。

#### 【0 0 9 7】

ハンドオーバー期間が終了してから所定の期間は、画像データ受信装置 3 0 7 では、画像符号化データ 1、2 がともに受信される。この所定の期間中に受信される画像符号化データ 2 には、画像符号化データ 1 のハンドオーバー期間中に欠落したデータの一部又は全部が含まれる。符号化データバッファ／再構成部 3 1 1 は、受信した画像符号化データ 2 からその画像符号化データ 1 の欠落データに相当するデータを選択し、該選択したデータと受信した画像符号化データ 1 とを正しく並べることで 1 つの画像データに再構成する。この再構成により、画像符号化データ 1 の欠落データの一部又は全部が補われる。こうして再構成した画像データは、デコーダ 3 1 2 に供給されてそこで復号化される。

#### 【0 0 9 8】

上記所定の期間の後には、上述の通常時と同じ動作が行われることとなる。

#### 【0 0 9 9】

図6に、上述したハンドオーバ時における画像データの再構成の具体例を示す。画像符号化データ1として7番目のフレーム、8番目のフレーム・・・30番目のフレームのデータがこの順番で送信される。ハンドオーバ時には、画像符号化データ1とともに、画像符号化データ2として9番目のフレーム、10番目のフレーム・・・22番目のフレームのデータがこの順番で送信されており、これら画像符号化データ1、2の間には、6フレーム分の時間差がある。画像符号化データ1において、7番目～14番目および29番目～30番目のフレーム（太字で示した部分）は、通常ビットレートで送信されるように設定され、15番目～28番目のフレーム（細字で示した部分）は、低ビットレートで送信されるように設定された部分である。画像符号化データ2において、9番目～22番目のフレーム（細字で示した部分）は、低ビットレートで送信されるように設定された部分である。

#### 【0100】

図6の例では、画像データ受信装置307は、6フレーム置きに受信状況報告を画像データ配信装置301へ送信する。画像データ受信装置301は、画像符号化データ1の14番目のフレームを受信した時点で、ハンドオーバの開始と判断し、画像符号化データ1の26番目のフレームを受信した時点で、ハンドオーバの終了と判断する。画像データ受信装置307では、ハンドオーバの開始前は、画像符号化データ1の7番目～14番目のフレームのデータが通常ビットレートで受信され、ハンドオーバの終了後は、画像符号化データ1の27番目～30番目のフレームのデータが通常ビットレートで受信される。

#### 【0101】

ハンドオーバの開始から終了までの期間は、画像符号化データ1、2がともに画像データ受信装置307にて低ビットレートで受信されるように制御される。このため、ハンドオーバの開始後は、画像符号化データ1については、15番目のフレームから低ビットレートで送信され、画像符号化データ2については、9番目のフレームから低ビットレートで送信される。これにより、画像データ受信装置307では、画像符号化データ1については15番目のフレームから、画像符号化データ2については9番目のフレームから画像データがともに受信される

こととなる。

#### 【0102】

画像符号化データ1の16番目～20番目のフレーム（画像符号化データ2では、10番目～14番目までのフレーム）の期間は、ハンドオーバ期間中であり、このハンドオーバ期間中は、画像データ受信装置307では、画像符号化データ1、2のいずれも受信不能となる。このため、このハンドオーバ期間中は、画像符号化データ1については、16番目～20番目のフレームのデータが欠落し、画像符号化データ2については、10番目～14番目のフレームのデータが欠落することとなる。

#### 【0103】

ハンドオーバ期間の終了後、ハンドオーバの終了を判断するまでの期間は、画像データ受信装置307では、画像符号化データ1については21番目のフレームから、画像符号化データ2については15番目のフレームから、それぞれ低ビットレートで順次受信される。こうして、画像データ受信装置307では、ハンドオーバの開始から終了までの期間中に、画像符号化データ1の15番目、21番目～28番目のフレームのデータ、および、画像符号化データ2の9番目、15番目～22番目のフレームのデータがともに受信されることとなる。そして、これら受信した画像符号化データから、15番目～28番目のフレームが選択されて正しい順番で並び替えることで画像データの再構成が行われる。これにより、ハンドオーバ期間中に欠落した画像符号化データ1の16番目～20番目のフレームが補われることになる。

#### 【0104】

##### （実施例5）

図7に、本発明の第5の実施例である画像データ通信システムの概略構成を示す。この画像データ通信システムでは、画像データ配信装置701と画像データ受信装置707が、無線制御装置705および無線物理層上にIP網が構築された伝送路106を介して相互通信可能に接続されている。

#### 【0105】

画像データ配信装置701は、UDP/IPを用いて、画像符号化データを画

像データ受信装置 107 へ配信するものであって、その構成は、画像データ蓄積／生成部 702 および画像符号化データ送信部 703、704 からなる。画像データ蓄積／生成部 702 および画像符号化データ送信部 703、704 は、基本的には、図 1 に示した画像データ蓄積／生成部 102 および画像符号化データ送信部 104、105 と同じものである。

#### 【0106】

無線網制御装置 705 は、画像データ受信装置 707 にて受信される画像符号化データの、伝送路 706 の無線伝送路でのビット誤り率などの回線状況に基づいて画像データ受信装置 707 におけるハンドオーバー動作を監視する。また、無線網制御装置 705 は、通常時は、画像符号化データ送信部 703 から送出された画像符号化データ 1 については、画像データ受信装置 107 に優先して受信されるように、より高い優先度、及び／又は、電力で送信するとともに、画像符号化データ送信部 704 から送出された画像符号化データ 2 については、送信しないようにする、又は、より低い優先度、及び／又は、電力で送信する。さらに、無線網制御装置 705 は、ハンドオーバー時は、画像符号化データ送信部 703、704 から送出された画像符号化データ 1、2 がともに画像データ受信装置 107 にて受信されるように、画像符号化データ 1 については、優先度、及び／又は、電力を下げ、画像符号化データ 2 については、送信するようにする、又は、優先度、及び／又は、電力を上げる。

#### 【0107】

画像データ受信装置 707 は、無線 IP 網に接続されるクライアント端末であって、その構成は、画像符号化データ受信部 708、709、符号化データバッファ／再構成部 710、およびデコーダ 711 からなる。これら画像符号化データ受信部 708、709、符号化データバッファ／再構成部 710、およびデコーダ 711 は、図 1 に示した画像符号化データ受信部 109、110、符号化データバッファ／再構成部 111、およびデコーダ 112 と基本的には同じものである。

#### 【0108】

次に、本実施例の画像データ通信システムの動作を具体的に説明する。

**【0 1 0 9】**

まず、通常時、すなわち、画像データ受信装置 7 0 7 がある 1 つの無線エリア (セル) 内を移動している間の動作について説明する。画像データ配信装置 7 0 1 では、画像符号化データ送信部 7 0 3 が、画像符号化データ 1 を送出するとともに、画像符号化データ送信部 7 0 4 が、画像符号化データ 1 と同一の画像符号化データ 2 を、画像符号化データ 1 の送出から所定の時間分だけ遅れて送出する。

**【0 1 1 0】**

無線網制御装置 7 0 5 は、画像符号化データ送信部 7 0 3 から送出された画像符号化データ 1 をより高い優先度、及び／又は、電力で送信するとともに、画像符号化データ送信部 7 0 4 から送出された画像符号化データ 2 を送信しないようにする、又は、より低い優先度、及び／又は、電力で送信する。これにより、過剰なトラヒックのために伝送路 7 0 6 がオーバフローする、といったことが抑制される。

**【0 1 1 1】**

画像データ受信装置 7 0 7 では、少なくとも画像符号化データ 1 が画像符号化データ受信部 7 0 8 にて受信される。この受信された画像符号化データ 1 は、符号化データバッファ／再構成部 7 1 0 にて一時的に格納された後、デコーダ 7 1 1 へ供給され、そこで復号化処理が施される。

**【0 1 1 2】**

次に、ハンドオーバ時、すなわち、画像データ受信装置 7 0 7 が、画像符号化データ 1 を受信中に、現在の無線エリアから隣接する他の無線エリアへ移動する場合の動作を説明する。

**【0 1 1 3】**

現在の無線エリアの基地局から離れるに従って、画像データ受信装置 7 0 7 にて受信される画像符号化データの、伝送路 7 0 6 の無線伝送路でのビット誤り率が増大する。ビット誤り率が所定の値を超えると、無線網制御装置 7 0 5 は、ハンドオーバの開始と判断し、画像符号化データ送信部 7 0 3、7 0 4 から送出された画像符号化データ 1、2 がともに画像データ受信装置 1 0 7 にて受信される

ように、画像符号化データ 1 については、優先度、及び／又は、電力を下げ、画像符号化データ 2 については、送信するようにする、又は、優先度、及び／又は、電力を上げる。これにより、画像データ受信装置 7 0 7 では、画像符号化データ 1、2 がともに受信されることとなる。

#### 【0 1 1 4】

現在の無線エリアの基地局からさらに離れると、画像データ受信装置 7 0 7 では、画像符号化データ 1、2 の受信状況がさらに悪化して受信不能となる。この画像符号化データ 1、2 の受信不能になった時点が、ハンドオーバ期間の始まりである。また、画像データ受信装置 7 0 7 が移動先である他の無線エリア内の基地局に近づくに従って、画像データ受信装置 7 0 7 では、画像符号化データ 1、2 の受信状況が徐々に改善され、最終的に画像符号化データ 1、2 の受信が可能となる。この画像符号化データ 1、2 の受信が可能になった時点が、ハンドオーバ期間の終わりである。ハンドオーバ期間中は、画像データ受信装置 7 0 7 では、画像符号化データ 1、2 のいずれも受信不能となるため、データが欠落する。

#### 【0 1 1 5】

画像符号化データ 1、2 の受信が可能となると、画像データ受信装置 7 0 7 にて受信される画像符号化データの、伝送路 7 0 6 の無線伝送路でのビット誤り率が減少する。ビット誤り率が所定の値以下になると、無線網制御装置 7 0 5 は、その時点から所定の時間を経過した後に、ハンドオーバの終了と判断し、画像符号化データ送信部 7 0 3 から送出された画像符号化データ 1 をより高い優先度、及び／又は、電力で送信するとともに、画像符号化データ送信部 7 0 4 から送出された画像符号化データ 2 を送信しないようにする、又は、より低い優先度、及び／又は、電力で送信する。

#### 【0 1 1 6】

ハンドオーバ期間が終了してから所定の期間は、画像データ受信装置 7 0 7 では、画像符号化データ 1、2 がともに受信される。この所定の期間中に受信される画像符号化データ 2 には、画像符号化データ 1 のハンドオーバ期間中に欠落したデータの一部又は全部が含まれる。符号化データバッファ／再構成部 7 1 0 は、受信した画像符号化データ 2 からその画像符号化データ 1 の欠落データに相当



するデータを選択し、該選択したデータと受信した画像符号化データ 1 とを正しく並べることで 1 つの画像データに再構成する。この再構成により、画像符号化データ 1 の欠落データの一部又は全部が補われる。こうして再構成した画像データは、デコーダ 312 に供給されてそこで復号化される。

#### 【0117】

上記所定の期間の後は、画像データ受信装置 707 では、上述の通常時と同じ動作が行われることとなる。

#### 【0118】

図 8 に、上述したハンドオーバ時における画像データの再構成の具体例を示す。画像符号化データ 1 として 7 番目のフレーム、8 番目のフレーム・・・30 番目のフレームのデータがこの順番で送信され、画像符号化データ 2 として 1 番目のフレーム、2 番目のフレーム・・・24 番目のフレームのデータがこの順番で送信されており、これら画像符号化データ 1、2 の間には、6 フレーム分の時間差がある。画像符号化データ 1 において、7 番目～14 番目および 27 番目～30 番目のフレーム（太字で示した部分）は、高優先度に設定された部分であり、15 番目～26 番目のフレーム（細字で示した部分）は、優先度が低くなるように設定された部分である。画像符号化データ 2 において、1 番目～8 番目および 21 番目～24 番目のフレーム（小文字で示した部分）は、低優先度に設定された部分であり、9 番目～20 番目のフレーム（下線を付きの文字で示した部分）は、通常優先度に設定された部分である。

#### 【0119】

図 8 の例では、無線網制御装置 705 は、画像符号化データ 1 の 14 番目のフレームが画像データ受信装置 707 にて受信された時点で、ハンドオーバの開始と判断し、画像符号化データ 1 の 26 番目のフレームが画像データ受信装置 707 にて受信された時点で、ハンドオーバの終了と判断する。画像データ受信装置 307 では、ハンドオーバの開始前は、画像符号化データ 1 の 7 番目～14 番目のフレームのデータが優先的に受信され、ハンドオーバの終了後は、画像符号化データ 1 の 27 番目～30 番目のフレームのデータが優先的に受信される。

#### 【0120】

ハンドオーバの開始から終了までの期間は、画像符号化データ 1、2 がともに画像データ受信装置 707 にて受信されるように優先度、及び／又は、電力の制御が行われる。このため、ハンドオーバの開始後は、画像符号化データ 1 については、15 番目のフレームから優先度が低くなり、画像符号化データ 2 については、9 番目のフレームから通常優先度になる。これにより、画像データ受信装置 707 では、画像符号化データ 1 については 15 番目のフレームから、画像符号化データ 2 については 9 番目のフレームから画像データがともに受信されることとなる。

#### 【0121】

画像符号化データ 1 の 16 番目から 20 番目までのフレーム（画像符号化データ 2 では、10 番目から 14 番目までのフレーム）の期間は、ハンドオーバ期間中であり、このハンドオーバ期間中は、画像データ受信装置 707 では、画像符号化データ 1、2 のいずれも受信不能となる。このため、このハンドオーバ期間中は、画像符号化データ 1 については、16 番目～20 番目のフレームのデータが欠落し、画像符号化データ 2 については、10 番目～14 番目のフレームのデータが欠落することとなる。

#### 【0122】

ハンドオーバ期間の終了後、ハンドオーバの終了までの期間は、画像データ受信装置 707 では、画像符号化データ 1 については 21 番目のフレームから、画像符号化データ 2 については 15 番目のフレームから順次受信される。こうして、画像データ受信装置 707 では、ハンドオーバの開始から終了までの期間中に、画像符号化データ 1 の 15 番目、21 番目～26 番目のフレームのデータ、および、画像符号化データ 2 の 9 番目、15 番目～20 番目のフレームのデータがともに受信されることとなる。そして、その受信した画像符号化データ 1 の 21 番目～26 番目のフレームと画像符号化データ 2 の 15 番目～20 番目のフレームとから画像データの再構成が行われる。これにより、ハンドオーバ期間中に欠落した画像符号化データ 1 の 16 番目～20 番目のフレームが、画像符号化データ 2 の 16 番目～20 番目のフレームで補われることになる。

#### 【0123】

## (実施例 6)

図 9 に、本発明の第 6 の実施例である画像データ通信システムの概略構成を示す。この画像データ通信システムでは、画像データ配信装置 901 と画像データ受信装置 906 が、無線物理層上に IP 網が構築された伝送路 905 を介して通信可能に接続されている。

## 【0124】

画像データ配信装置 901 は、UDP/IP を用いて、画像符号化データを画像データ受信装置 906 へ配信するものであって、その構成は、画像データ蓄積／生成部 902 および画像符号化データ送信部 903、904 からなる。画像データ蓄積／生成部 902 および画像符号化データ送信部 903、904 は、基本的には、図 3 に示した画像データ蓄積／生成部 303 および画像符号化データ送信部 304、305 と同じものであるが、本実施例では、画像符号化データ送信部 903、904 は、それぞれ画像符号化データ 1、2 を異なったセッションでマルチキャスト（一斉同報）配信するようになっている。

## 【0125】

伝送路 905 は、マルチキャスト・トラフィックがフォワードできるネットワークであり、マルチキャスト・グループへの参加／離脱を制御する IGMP (Internet Group Management Protocol) もしくは、これに相当するプロトコルをサポートしている。

## 【0126】

画像データ受信装置 906 は、無線 IP 網に接続されるクライアント端末であって、その構成は、マルチキャスト・グループ参加／離脱処理部 907、画像符号化データ受信部 908、909、符号化データバッファ／再構成部 910、およびデコーダ 911 からなる。画像符号化データ受信部 908、909、符号化データバッファ／再構成部 910、およびデコーダ 911 は、図 3 に示した画像符号化データ受信部 309、310、符号化データバッファ／再構成部 311、およびデコーダ 312 と基本的には同じものである。

## 【0127】

マルチキャスト・グループ参加／離脱処理部 907 は、通常時は、画像符号化

データ送信部 903 が配信する画像符号化データ 1 のマルチキャスト・グループに参加しており、画像符号化データ 1 の受信状態により、ハンドオーバーの開始を判断する。また、マルチキャスト・グループ参加／離脱処理部 907 は、ハンドオーバーの開始と判断した後は、画像符号化データ送信部 904 が配信する画像符号化データ 2 のマルチキャスト・グループにも参加するようになっており、画像符号化データ 1、2 の受信状態によりハンドオーバー期間の始まりと終了を判断する。さらに、マルチキャスト・グループ参加／離脱処理部 907 は、ハンドオーバー期間の終了から所定の時間経過後にハンドオーバーの終了と判断し、該判断後は、画像符号化データ送信部 904 が配信する画像符号化データ 2 のマルチキャスト・グループから離脱する。

#### 【0128】

次に、本実施例の画像データ通信システムの動作を具体的に説明する。

#### 【0129】

まず、通常時、すなわち、画像データ受信装置 906 がある 1 つの無線エリア（セル）内を移動している間の動作について説明する。通常時は、マルチキャスト・グループ参加／離脱処理部 907 は、画像符号化データ送信部 903 が配信する画像符号化データ 1 のマルチキャスト・グループに参加しているため、画像データ受信装置 907 では、画像符号化データ受信部 908 にて画像符号化データ 1 が受信される。この受信された画像符号化データ 1 は、符号化データバッファ／再構成部 910 にて一時的に格納された後、デコーダ 911 へ供給され、そこで復号化処理が施される。

#### 【0130】

次に、ハンドオーバー時、すなわち、画像データ受信装置 906 が、画像符号化データ 1 を受信中に、現在の無線エリアから隣接する他の無線エリアへ移動する場合の動作を説明する。

#### 【0131】

現在の無線エリアの基地局から離れるに従って、画像データ受信装置 307 では、画像符号化データ 1 の受信状態が悪化して損失率が増大する。この損失率が所定の値を超えると、マルチキャスト・グループ参加／離脱処理部 907 は、ハ

ンドオーバの開始と判断して、画像符号化データ送信部 9 0 4 が配信する画像符号化データ 2 のマルチキャスト・グループにも参加する。これにより、画像データ受信装置 9 0 6 では、ハンドオーバ開始後は、所定の時間差を有する同一の画像符号化データ 1、2 がともに受信されることとなる。

#### 【0 1 3 2】

現在の無線エリアの基地局からさらに離れると、画像データ受信装置 9 0 6 では、画像符号化データ 1、2 の受信状態がさらに悪化して受信不能となる。この画像符号化データ 1、2 の受信不能になった時点が、ハンドオーバ期間の始まりである。また、画像データ受信装置 9 0 6 が移動先である他の無線エリア内の基地局に近づくに従って、画像データ受信装置 9 0 6 では、画像符号化データ 1、2 の受信状態が徐々に改善され、最終的に画像符号化データ 1、2 の受信が可能となる。この画像符号化データ 1、2 の受信が可能になった時点が、ハンドオーバ期間の終わりである。ハンドオーバ期間中は、画像データ受信装置 9 0 6 では、画像符号化データ 1、2 のいずれも受信不能となるため、データが欠落する。

#### 【0 1 3 3】

ハンドオーバ期間が終了してから所定の期間は、マルチキャスト・グループ参加／離脱処理部 9 0 7 は、画像符号化データ送信部 9 0 4 が配信する画像符号化データ 1、2 のそれぞれのマルチキャスト・グループに参加しているため、画像データ受信装置 9 0 7 では、画像符号化データ 1、2 がともに受信される。この所定の期間中に受信される画像符号化データ 2 には、画像符号化データ 1 のハンドオーバ期間中に欠落したデータの一部又は全部が含まれる。符号化データバッファ／再構成部 9 1 0 は、受信した画像符号化データ 2 からその画像符号化データ 1 の欠落データに相当するデータを選択し、該選択したデータと受信した画像符号化データ 1 とを正しく並べることで 1 つの画像データに再構成する。この再構成により、画像符号化データ 1 の欠落データの一部又は全部が補われる。こうして再構成した画像データは、デコーダ 9 1 1 に供給されてそこで復号化される。

#### 【0 1 3 4】

上記所定の期間の後、マルチキャスト・グループ参加／離脱処理部 9 0 7 は、

ハンドオーバーの終了と判断して、画像符号化データ送信部 904 が配信する画像符号化データ 2 のマルチキャスト・グループから離脱する。これにより、画像データ受信装置 307 では、画像符号化データ 2 の受信が停止し、上述の通常時と同じ動作が行われることとなる。

#### 【0135】

以上説明した各実施例 1～6 の画像データ通信システムによれば、ハンドオーバー期間中に欠落したデータの一部または全部を補うことができるので、より画像品質の高いものを提供することができる。

#### 【0136】

また、ネットワークリソースに余裕がある場合は、画像データ受信装置は、画像符号化データ 1、2 の双方を受信することができるため、万が一、一方の画像符号化データが欠落しても、他方でこれを補うことができる。これにより、ハンドオーバー期間以外の画像品質も、より安定化することになる。

#### 【0137】

なお、上述した各実施例の画像データ通信システムは一例であり、本発明は、これら実施例にて図示したものに限定されるものではなく、その構成は適宜変更することができる。例えば、所定の時間差を有する 2 つの同一の画像符号化データから必要なデータを選択して再構成するようになっているが、この再構成に用いるデータは、所定の時間差を有する 3 つ以上の同一の画像符号化データであってもよい。この場合は、所定の時間差を有する 3 つ以上の同一の画像符号化データを用いて再構成することで、より確実に欠落フレームを補うことができる。

#### 【0138】

また、伝送路を複数とし、画像符号化データ 1、2 をそれぞれ異なった伝送路により伝送する構成としてもよい。

#### 【0139】

さらに、画像符号化データを送出するようになっているが、この画像符号化データに代えて蓄積された動画像データを単に配信したり、リアルタイムで既存画像データを変換することにより生成した動画像データを送信してもよい。

#### 【0140】

上述した各実施例の画像データ通信システムにおいて、画像データ配信装置と画像データ通信装置は、例えばサーバとクライアント端末に対応するものであって、いずれもプログラムなどを蓄積する記憶装置を備えたコンピュータシステムより構成される。上述した各実施例で説明した画像データ配信装置および画像データ通信装置における動作は、いずれもプログラムがその動作に関する処理をコンピュータに実行させることで行われる。

#### 【0141】

また、上述の各実施例の画像符号化データのフレームは、各画像符号化データの同一フレームの同一部位を符号化した画像データパケットであってもよい。

#### 【0142】

なお、本発明を上述の実施形態に即して説明したが、本発明は、上述の実施形態の構成にのみ限定されるものでなく、特許請求の範囲の各請求項の発明の範囲内で当業者であれば成し得るであろう各種変形、修正を含むことは勿論のことである。

#### 【0143】

##### 【発明の効果】

以上説明したように、本発明によれば、ハンドオーバが発生しても、再構成により欠落データが補われるので、画質の乱れを最小限に抑えることができる。

#### 【0144】

さらに、上述の再構成をした後に、受信データの復号化を行うため、複数の画像データの復号を行う必要がなく、復号化に要する演算量の増加を低く抑えることができる。

#### 【0145】

また、ネットワークリソースが不足することもないので、安定した画像データ通信を提供することができる。

##### 【図面の簡単な説明】

##### 【図1】

本発明の第1の実施例である画像データ通信システムの概略構成を示すブロック図である。

**【図 2】**

図 1 に示す画像データ通信システムの、ハンドオーバー時における画像データの再構成の具体例を示す模式図である。

**【図 3】**

本発明の第 2 の実施例である画像データ通信システムの概略構成を示すブロック図である。

**【図 4】**

図 3 に示す画像データ通信システムの、ハンドオーバー時における画像データの再構成の具体例を示す模式図である。

**【図 5】**

本発明の第 3 の実施例である画像データ通信システムの、ハンドオーバー時における画像データの再構成の具体例を示す模式図である。

**【図 6】**

本発明の第 3 の実施例である画像データ通信システムの、ハンドオーバー時における画像データの再構成の具体例を示す模式図である。

**【図 7】**

本発明の第 5 の実施例である画像データ通信システムの概略構成を示すブロック図である。

**【図 8】**

図 7 に示す画像データ通信システムの、ハンドオーバー時における画像データの再構成の具体例を示す模式図である。

**【図 9】**

本発明の第 6 の実施例である画像データ通信システムの概略構成を示すブロック図である。

**【符号の説明】**

101、301、701、901 画像データ配信装置

102、108 制御情報処理部

103、303、702、902 画像データ蓄積／生成部

104、105、304、305、703、704、903、904 画像符



## 号化データ送信部

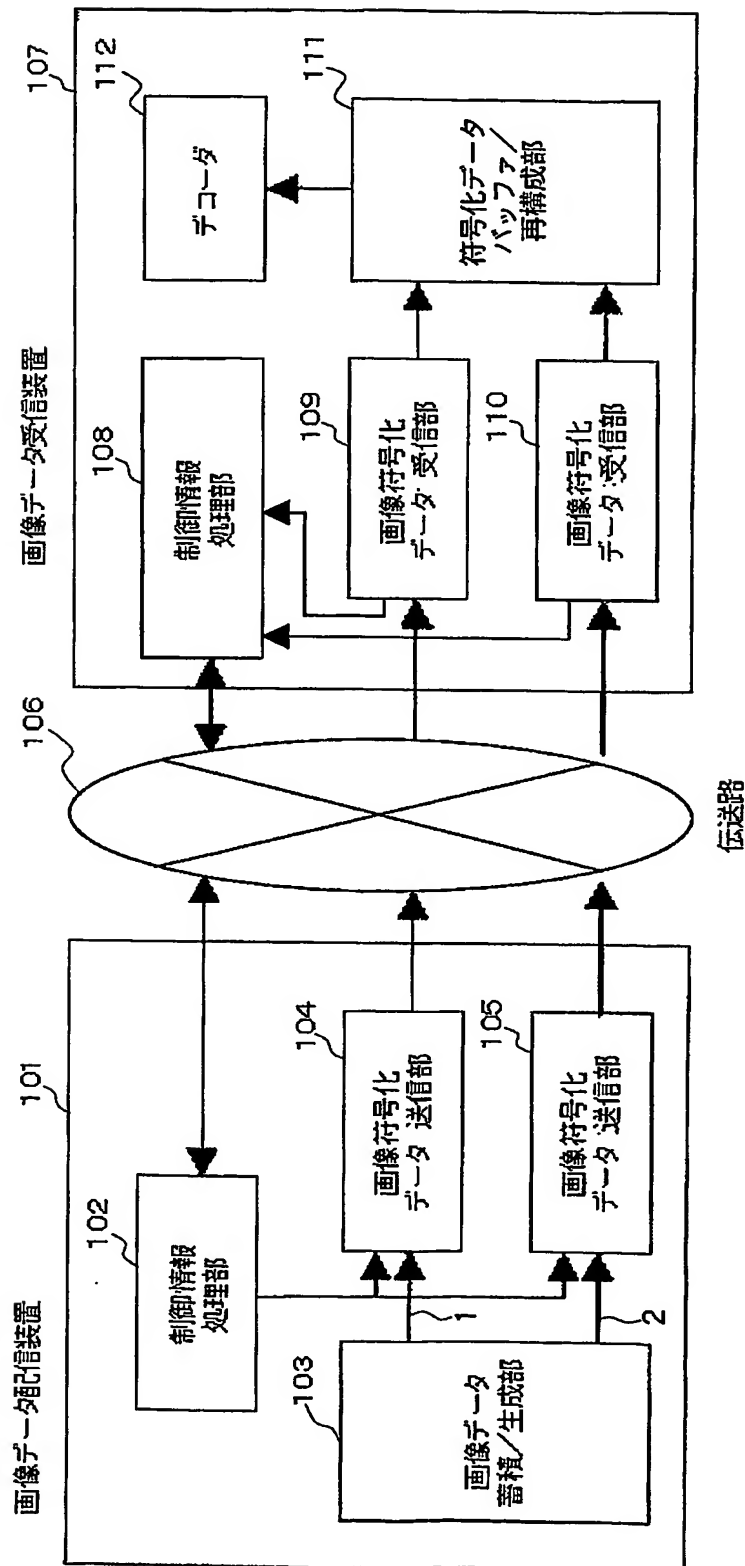
- 106、306、706、905 伝送路
- 107、307、707、906 画像データ受信装置
- 109、110、309、310、708、709、908、909 画像符

## 号化データ受信部

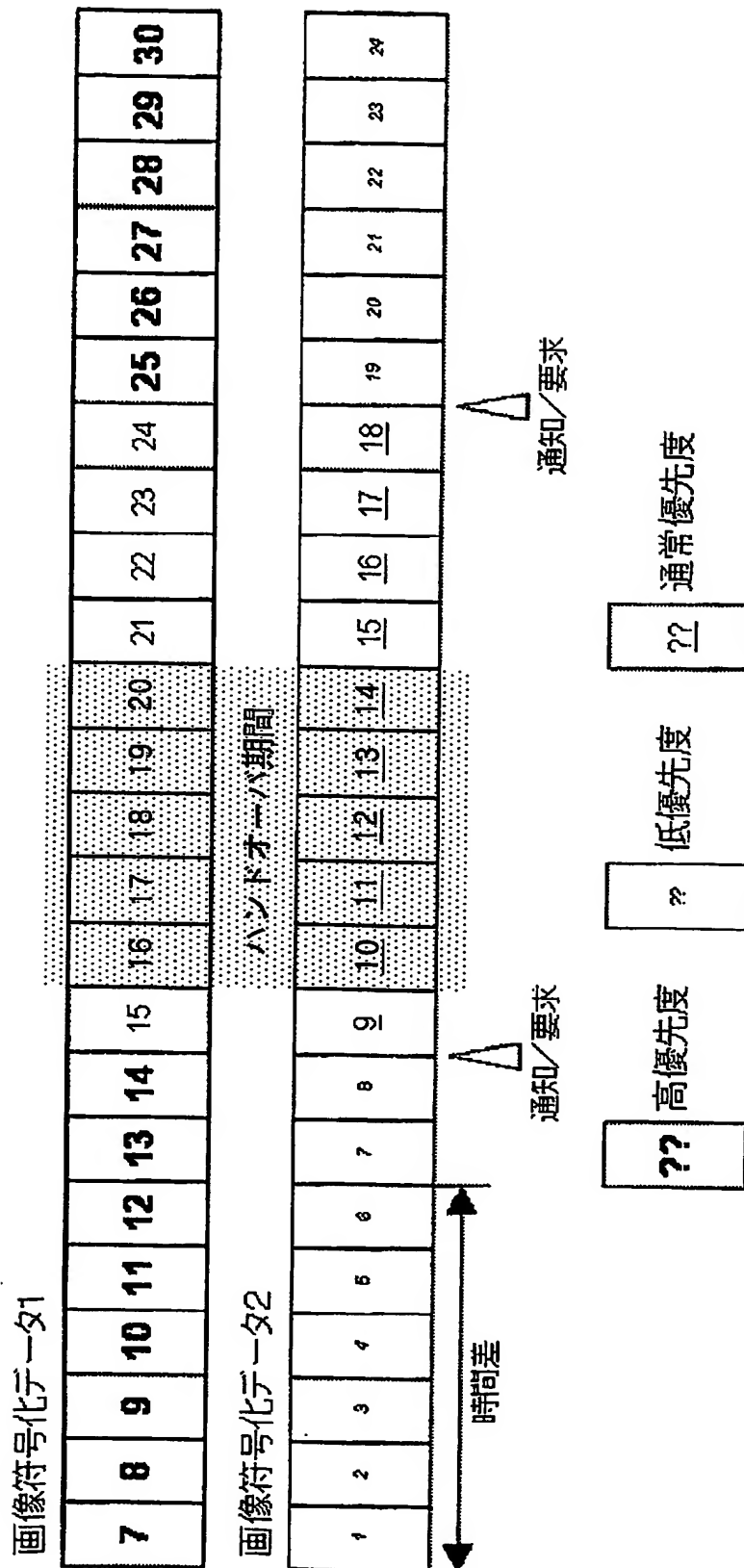
- 111、311、710、910 符号化データバッファ／再構成部
- 112、312、711、911 デコーダ
- 302 受信状況報告受信部
- 308 受信状況報告送信部
- 705 無線網制御装置
- 907 マルチキャスト・グループ参加／離脱処理部

【書類名】 図面

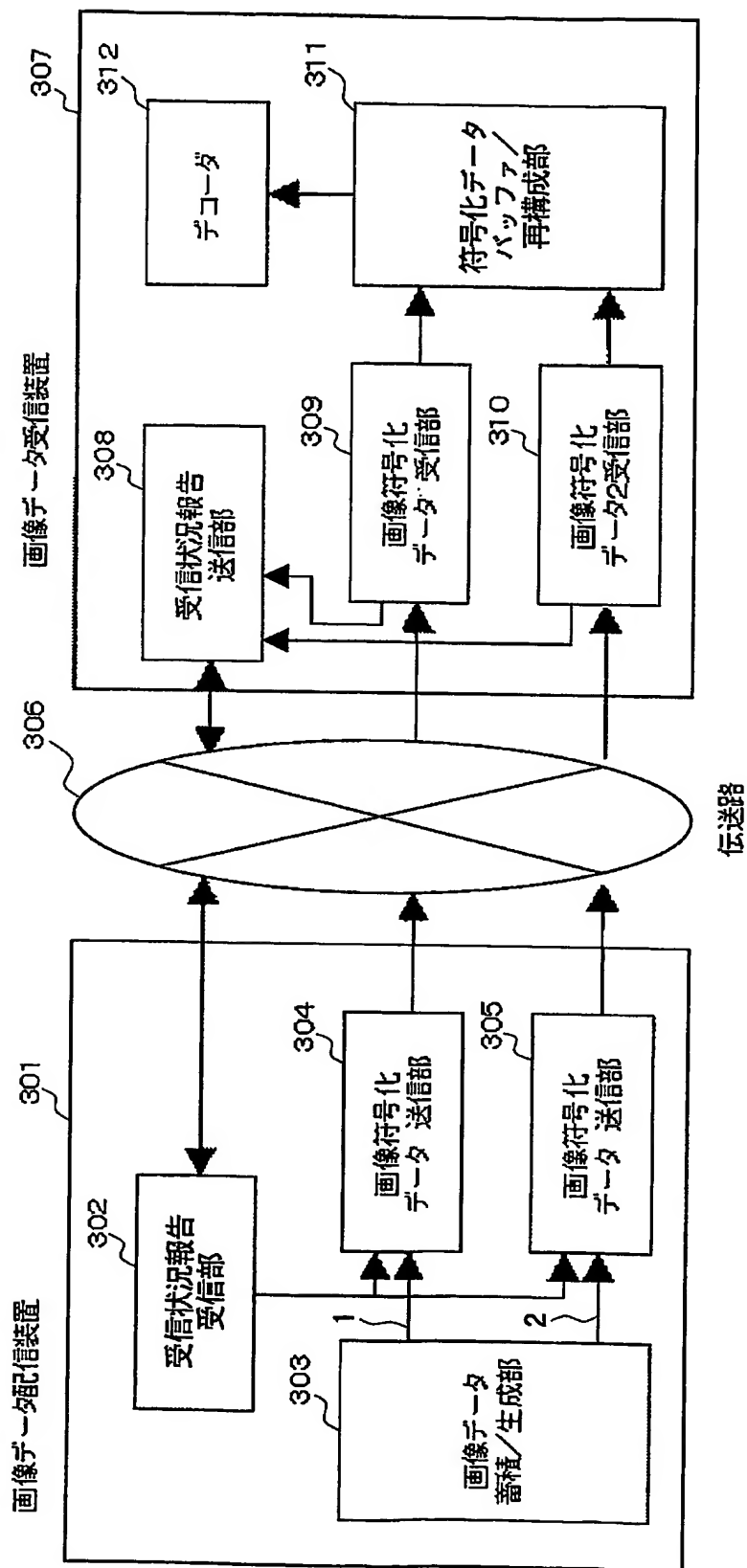
【図 1】



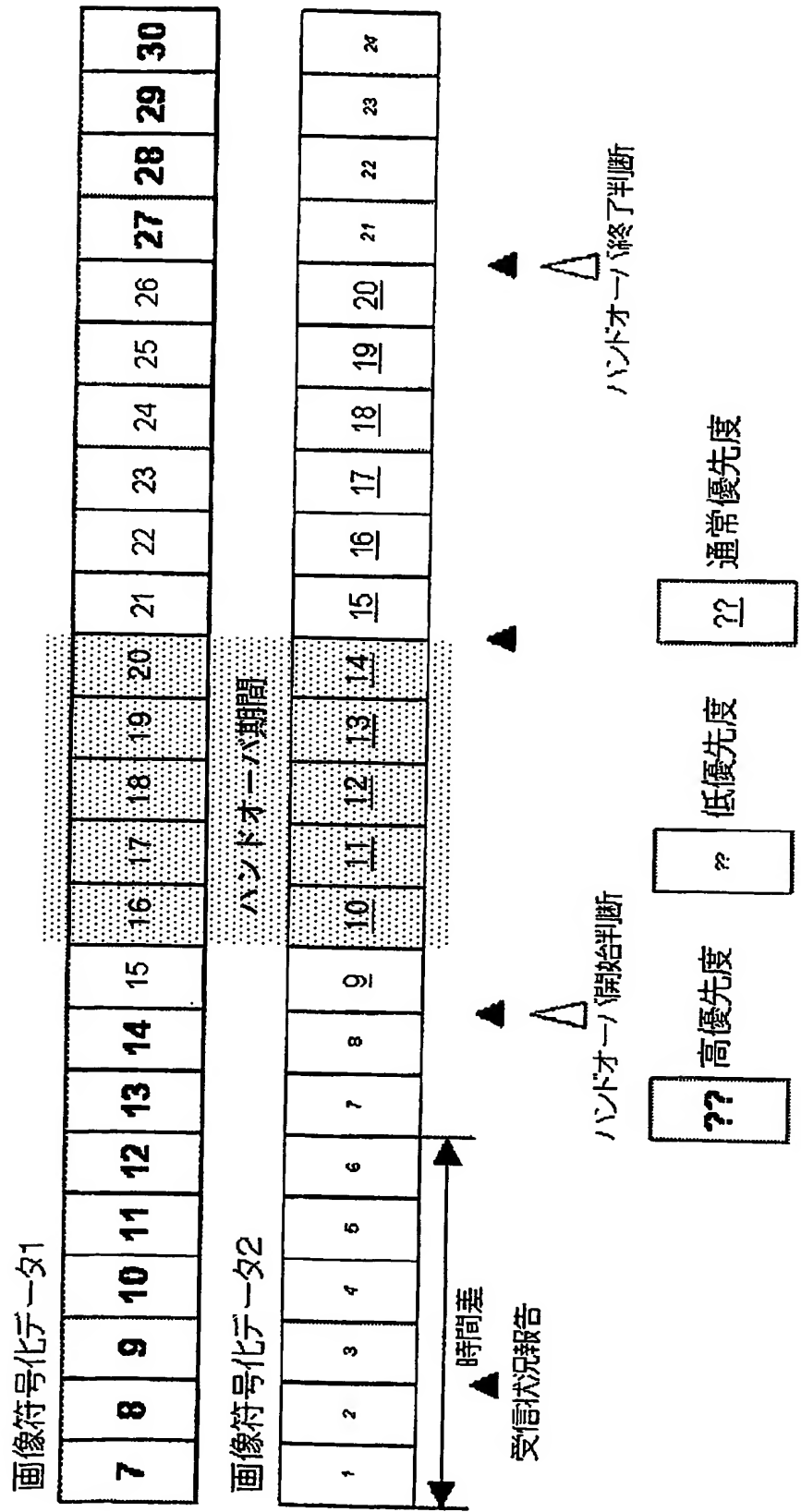
【図 2】



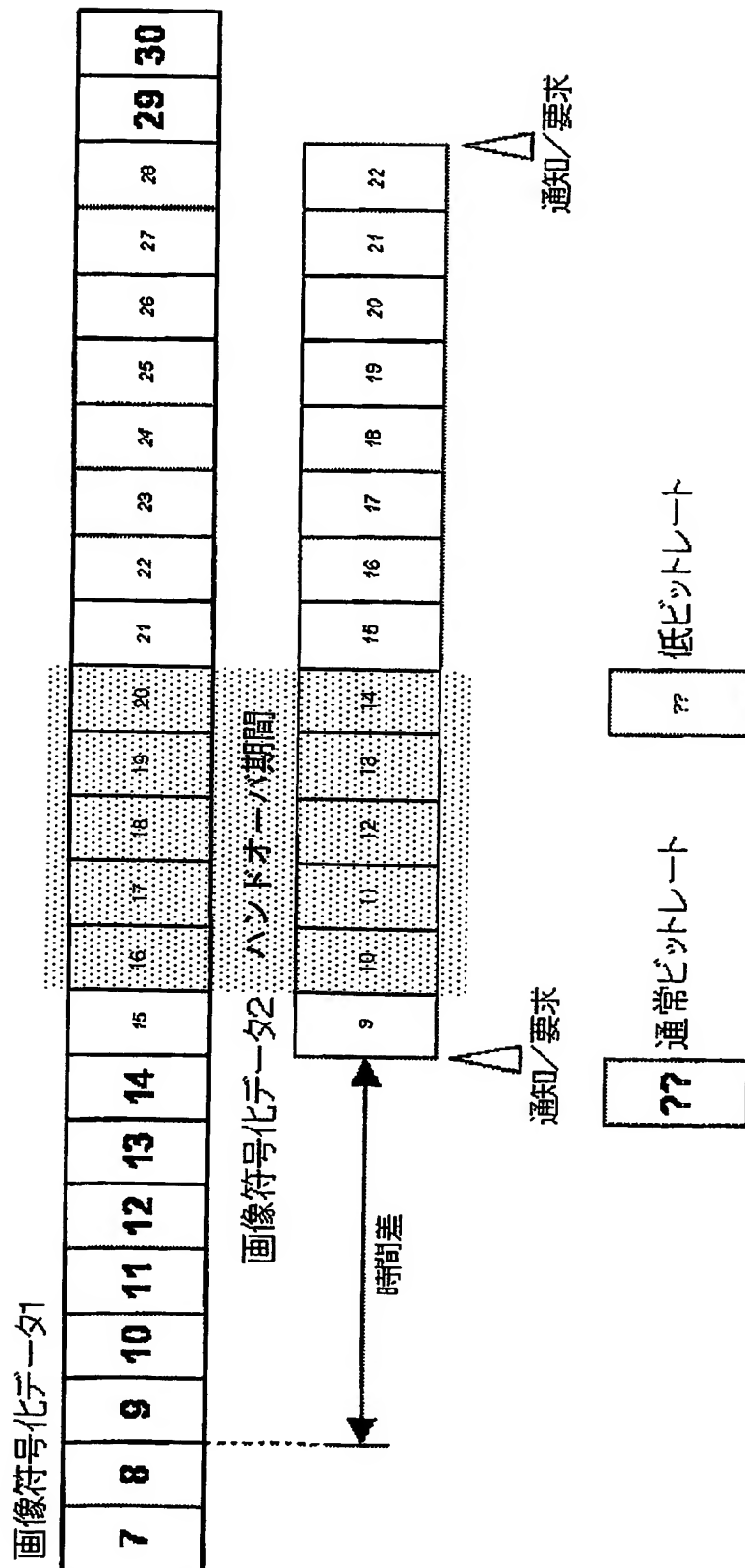
【図 3】



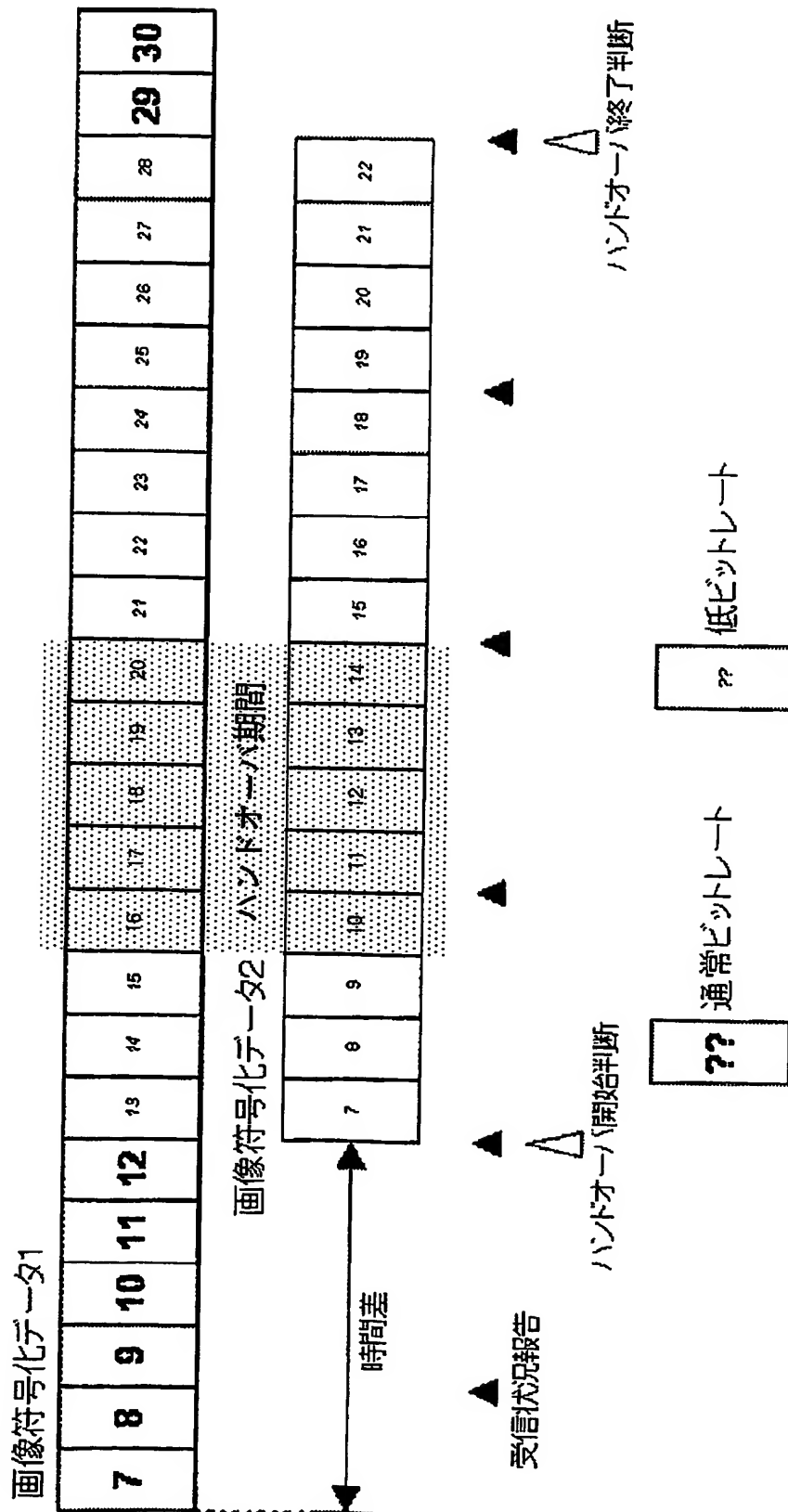
【図 4】



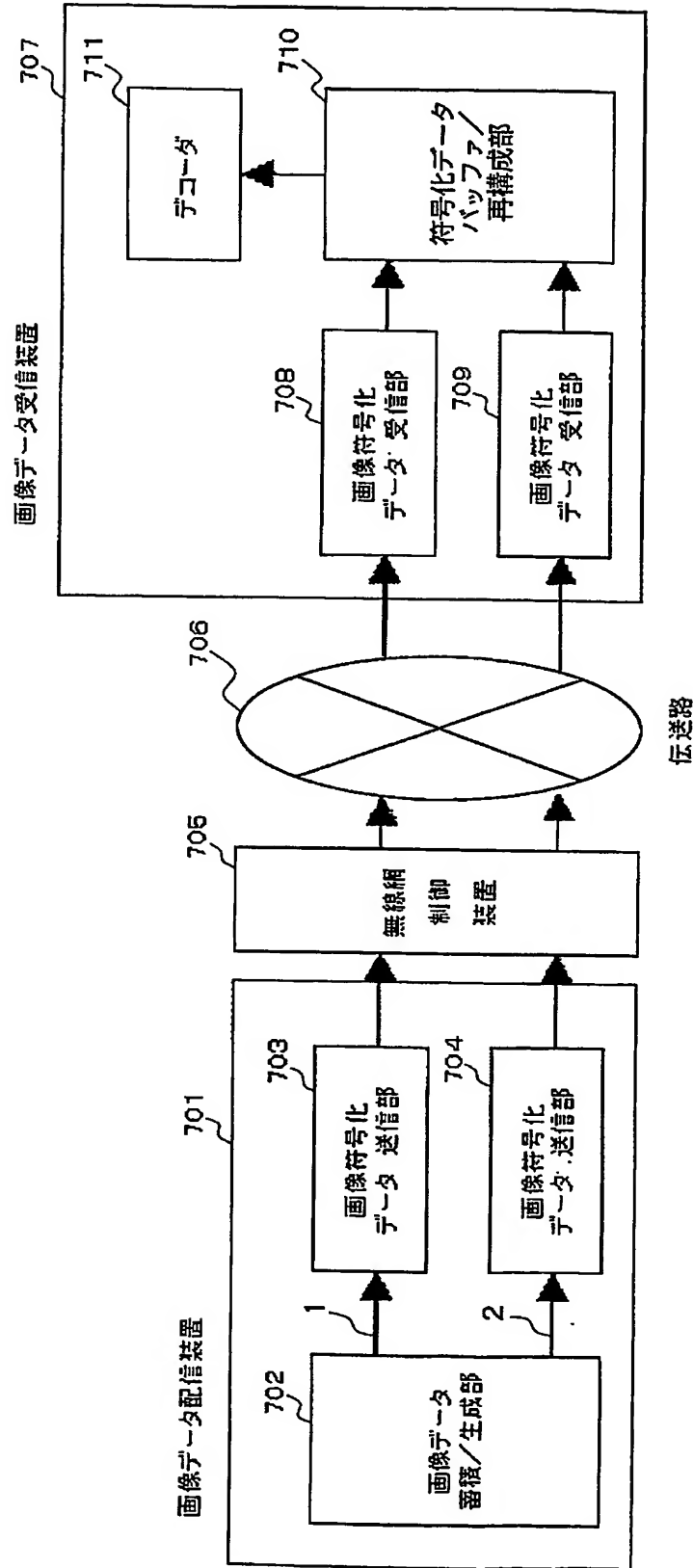
【図 5】



【図 6】

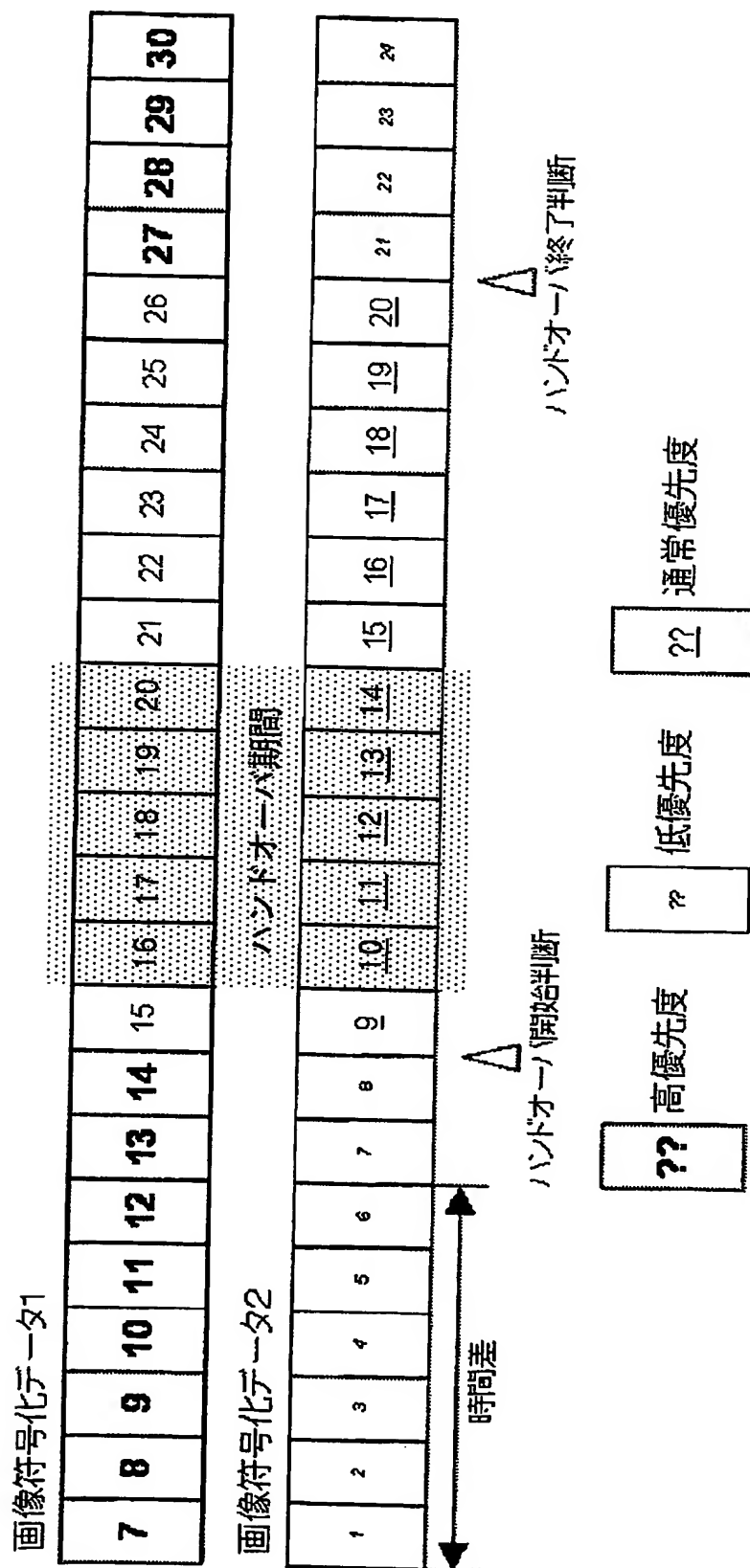


【図 7】

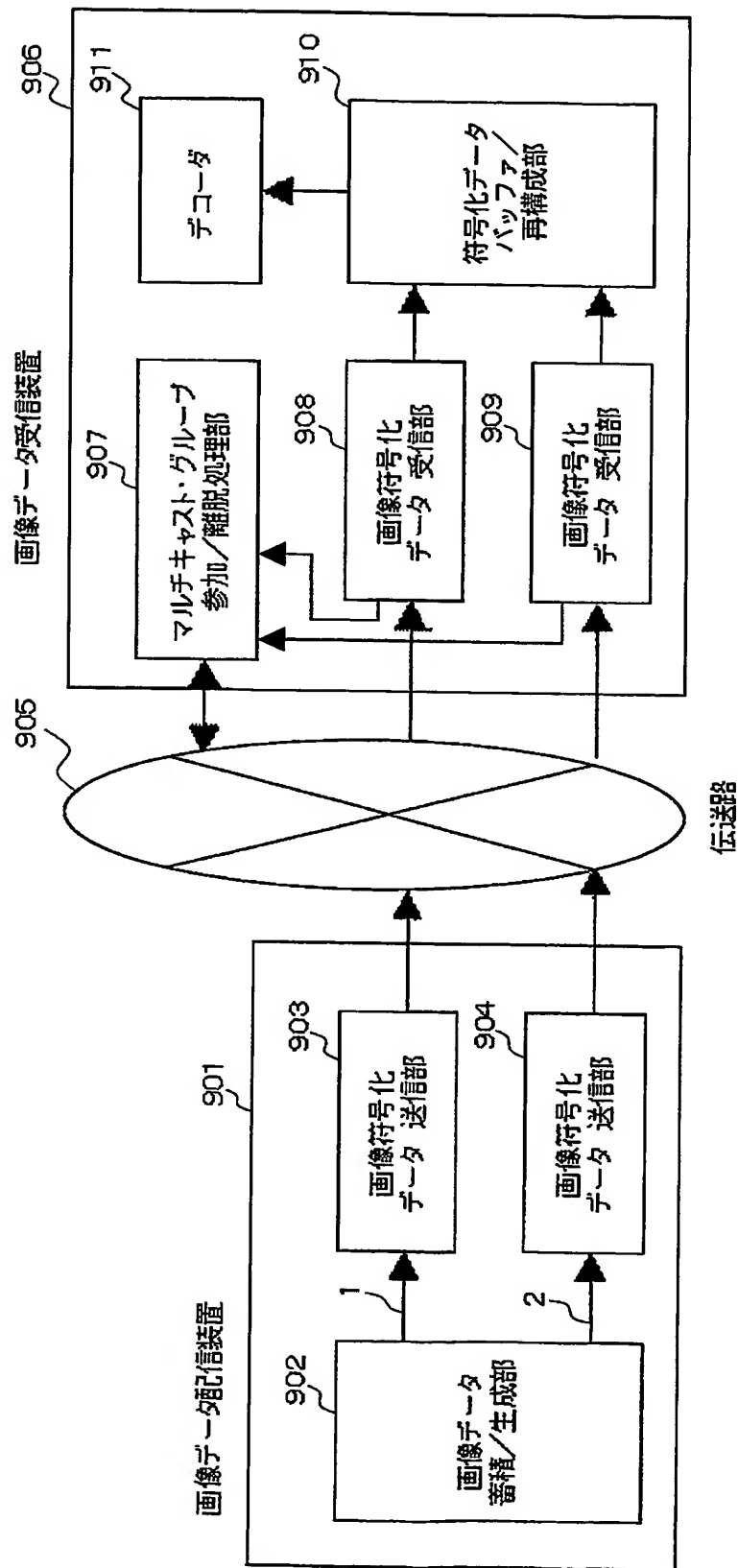




【図 8】



【図 9】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 ハンドオーバー期間中のデータ欠落を抑制することのできる画像データ通信システムを提供する。

【解決手段】 同一画像を符号化した画像符号化データ 1、2 を所定の時間差を付けて順次配信する画像データ配信装置 101 と、複数の無線エリアを移動しながら、画像データ配信装置 101 から配信された画像符号化データ 1、2 を受信する画像データ受信装置 107 を有する。画像データ受信装置 107 は、現在の無線エリアから隣接する他の無線エリアへ移動する際に生じるハンドオーバー時は、画像データ配信装置 101 から配信された上記所定の時間差を有する画像符号化データ 1、2 を所定の期間にわたって受信し、該受信した画像符号化データ 1、2 から必要なデータを選択して 1 つの動画画像データに再構成する。

【選択図】 図 1

特願 2 0 0 3 - 1 8 4 6 0 6

ページ : 1/E

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[ 0 0 0 0 0 4 2 3 7 ]

1. 変更年月日

1 9 9 0 年 8 月 2 9 日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都港区芝五丁目 7 番 1 号

氏 名

日本電気株式会社